令和２年度　高梁市医療計画検討委員会

資　料　集

（令和２年８月３１日）

高梁市の小児医療について（小児救急含む）

1　医療施設に従事する小児科医師の状況　（単位：人）

区　分	高梁市	岡山県
医師数	4	297
年少人口１万人当たりの医師数	13.4	11.6

（出所：（一社）高梁医師会、岡山県保健医療計画）

2　市実施の乳幼児健診委託医療機関

医療機関名	診療時間
高梁市国民健康保険　成羽病院	9:00～12:30 14:00～17:15（平日） 9:00～12:30（土）　※第2,4土・日・祝日は休み
医療法人　池田医院	9:00～12:00 15:00～18:00（平日） 9:00～12:00（木・土）　※日・祝日は休み
医療法人　仲田医院	9:00～12:00 16:00～18:30（平日） 9:00～12:00（水・土）　※日・祝日は休み
医療法人昌陽会　藤本診療所	9:00～12:30 14:30～17:30（平日） 9:00～12:30（火・土）　※日・祝日は休み

（出所：高梁市調べ）

3　小児科を標榜する医療機関

高梁市国民健康保険　成羽病院
医療法人　池田医院
医療法人　仲田医院
医療法人昌陽会　藤本診療所
医療法人三渓会　三村医院
高梁市川上診療所
高梁市国民健康保険　成羽病院附属　備中診療所

（出所：（一社）高梁医師会）

4－1　人口ビジョンに沿った人口推移となった場合の小児科系の１日当たりの外来患者数の推計

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
小児科系	53.6	50.4	51.1	53.2	56.5	59.5

（出所：高梁市医療計画）

■２０４０年にかけて小児科系の外来患者は、横ばいから増加していきます。

4－2　社人研推計に沿った人口推移となった場合の小児科系の１日当たりの外来患者数の推計

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
小児科系	53.6	47.3	40.5	35.8	32.3	29.1

（出所：高梁市医療計画）

■２０４０年にかけて小児科系の外来患者は、約４６％減少します。

5－1　人口ビジョンに沿った人口推移となった場合の小児科系の１日当たりの入院患者数の推計

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
小児科系	0.8	0.9	0.9	0.9	1.0	1.1

（出所：高梁市医療計画）

5－2　社人研推計に沿った人口推移となった場合の小児科系の１日当たりの入院患者数の推計

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
小児科系	0.8	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5

（出所：高梁市医療計画）

6　小児救急医療電話相談件数（＃8000）（単位：件）

平成２６（2014）年度	229
平成２７（2015）年度	325
平成２８（2016）年度	283
平成２９（2017）年度	270
平成３０（2018）年度	259

（出所：岡山県保健医療計画　高梁・新見保健医療圏の数字）

7　小児の休日夜間早朝における受診状況　（単位：件、円）

		市内	市外
件　数	9	8	1
医療費	104,650	88,700	15,950
件数割合		89%	11%

（出所：国保令和元年９月診療分０歳～１４歳までの医科レセプト）

8－1　子ども医療費について（国民健康保険令和元年８月診療分、中学生以下医科）

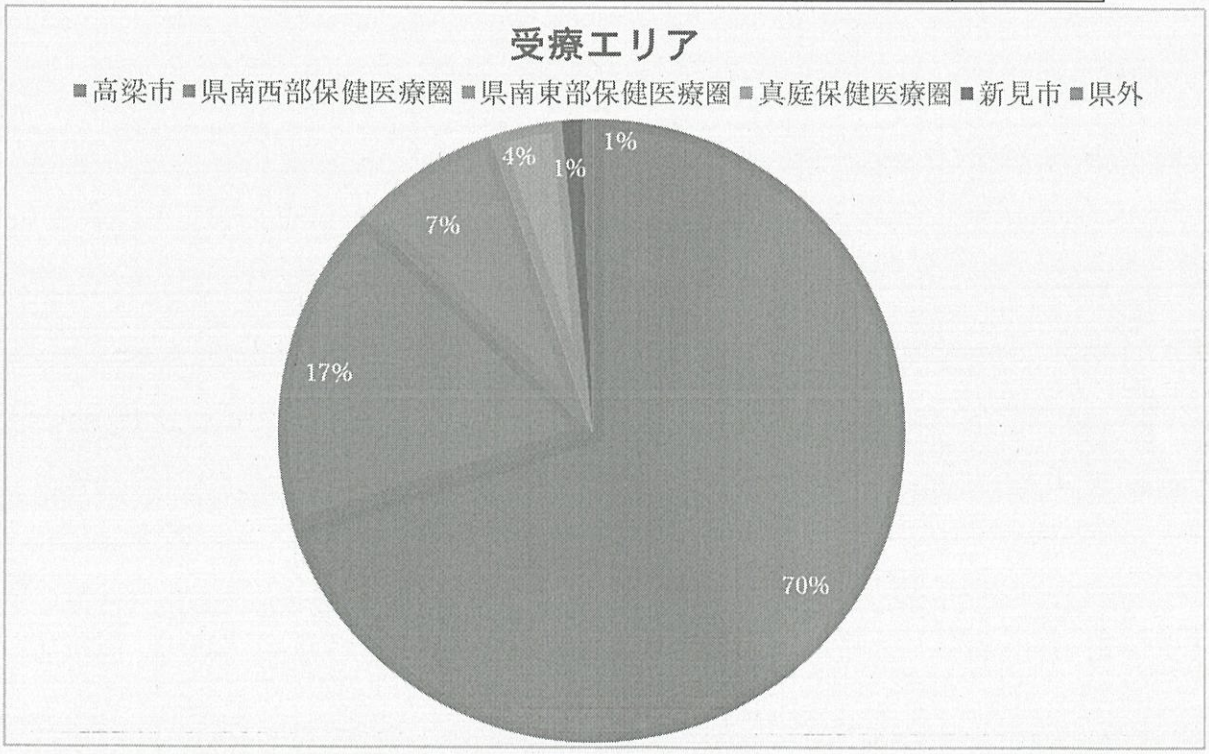
① 外来　（単位：件、円）

		市内	市外	県外
件 数	186	130	55	1
医療費	1,417,410	1,033,230	370,120	14,060
件数割合		69.9%	29.6%	0.5%

■国民健康保険加入者の約７０％は市内の医療機関にかかっています。

8－1－①－1受療エリア　（単位：件）

高梁市	県南西部保健医療圏	県南東部保健医療圏	真庭保健医療圏	新見市	県外
130	32	14	7	2	1



② 入院　　（単位：件、円）

		市内	市外
件 数	2	0	2
医療費	6,247,030	0	6,247,030
割 合		0%	100.0%

県南西部保健医療圏	県南東部保健医療圏
1	1

8－2　子ども医療費について（社会保険令和元年８月診療分、中学生以下医科）

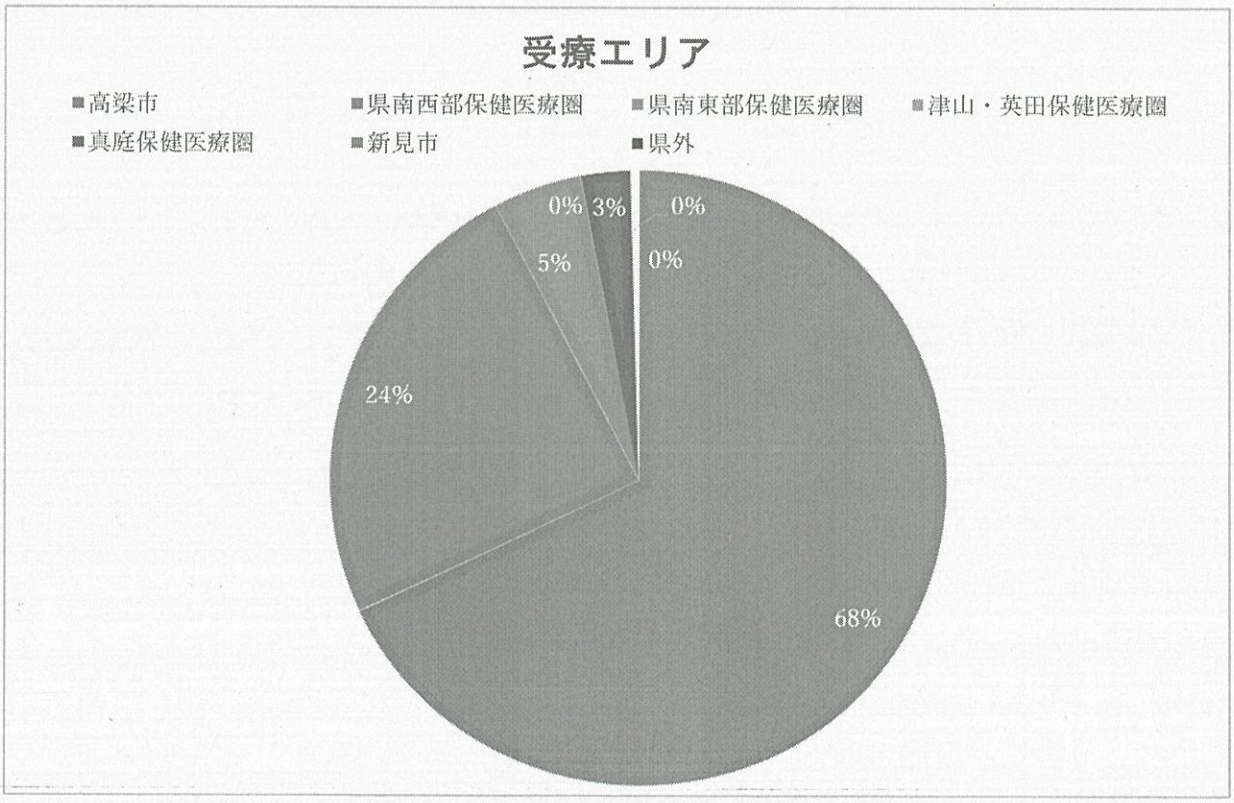
① 外来　　（単位：件、円）

		市内	市外	県外
件 数	1,580	1,074	503	3
医療費	13,311,984	8,053,090	5,240,414	18,480
件数割合		68.0%	31.8%	0.2%

■社会保険加入者の約７０％は市内の医療機関にかかっています。

8－2－①－１受療エリア　　（単位：件）

高梁市	県南西部保健医療圏	県南東部保健医療圏	津山・英田保健医療圏	真庭保健医療圏	新見市	県外
1,074	384	73	1	41	4	3



② 入院　　（単位：件、円）

		市内	市外
件 数	10	0	10
医療費	4,025,930	0	4,025,930
割 合			100.0%

県南西部保健医療圏	県南東部保健医療圏	津山・英田保健医療圏
5	4	1

9　高梁市小児救急医療実態調査結果

※高梁市小児救急医療実態調査

1）調査対象医療機関

高梁中央病院、大杉病院、こころの医療たいようの丘ホスピタル、成羽病院

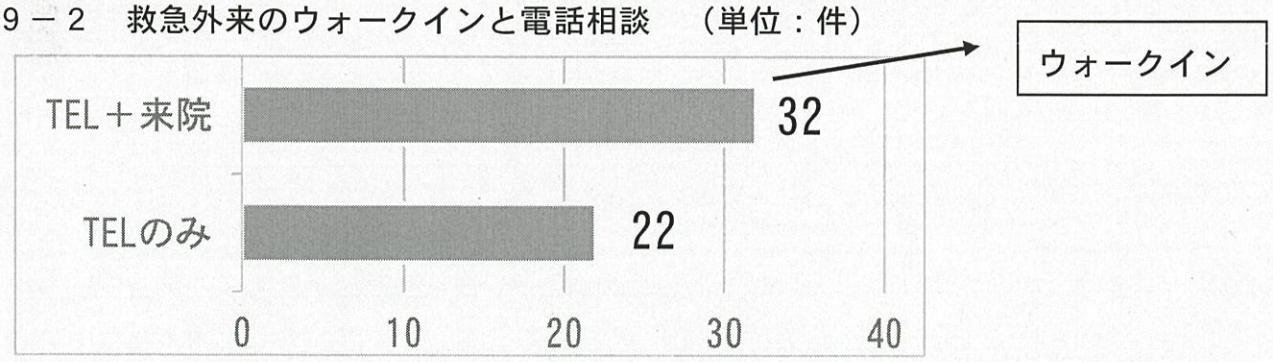
2）対象期間・患者

令和元年１１月１日（金）～３０日（土）（土・日・祝日は全時間帯、平日は０時～８時、１８時～２４時）における小児救急患者

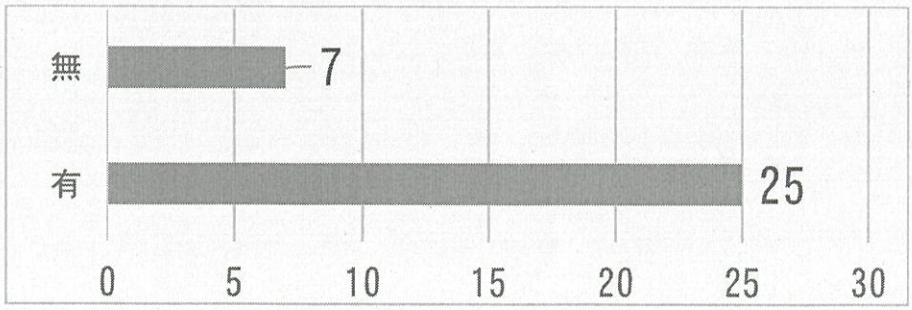
9－1　患者の交通手段　　（単位：件）

救急車	自動車等
0	32

9－2　救急外来のウォークインと電話相談　（単位：件）

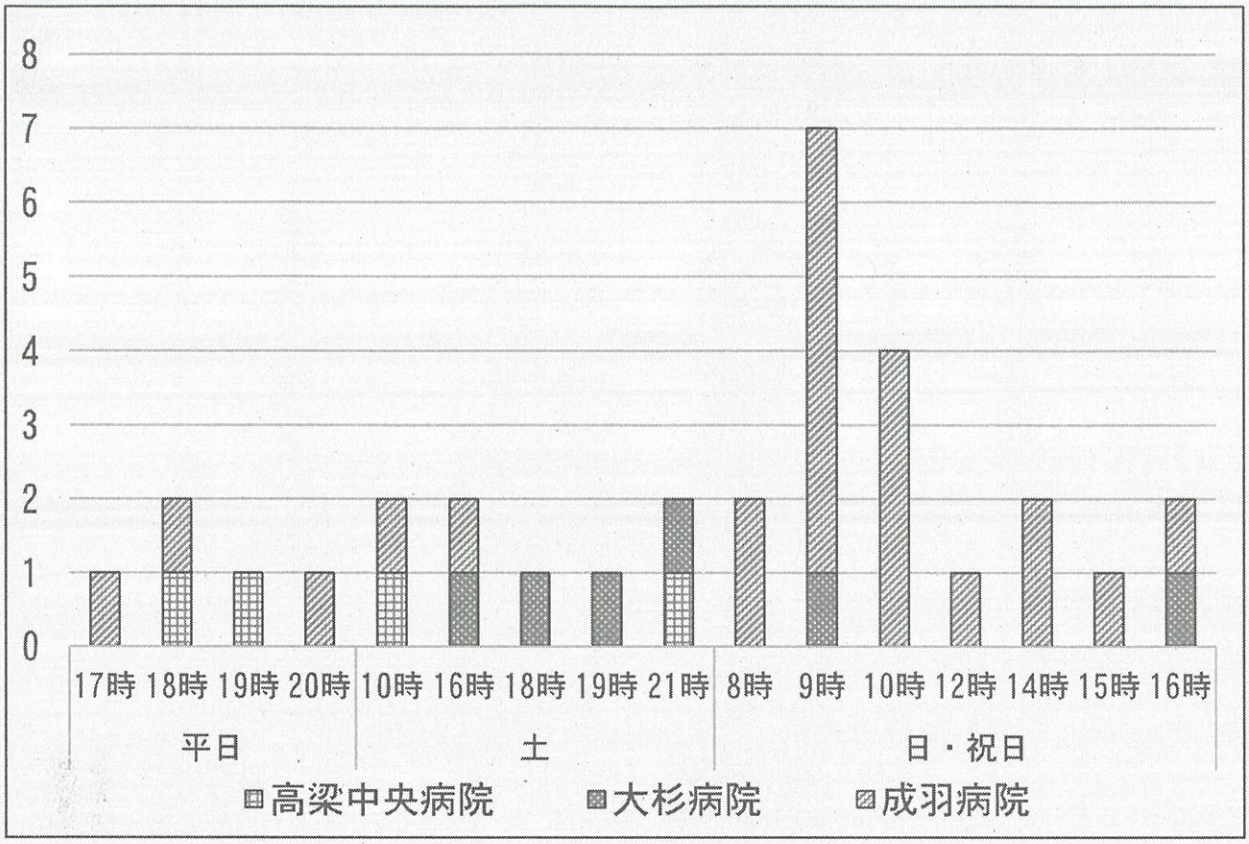


9－3　緊急性の有無　（単位：件）

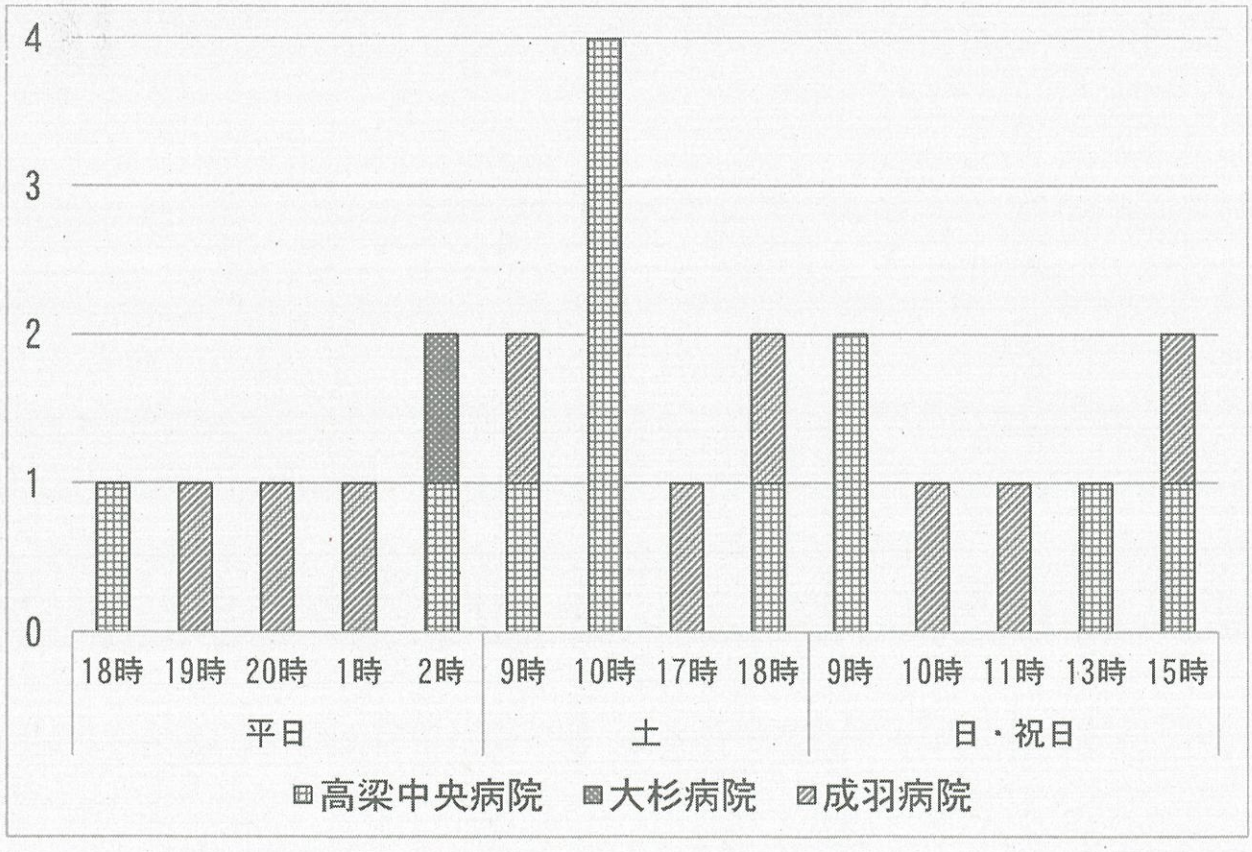


■小児救急のうち、緊急性が低いものが約２２％あります。

9－4　小児救急患者の受入状況　（単位：件）



9－5　小児救急の電話相談状況　（単位：件）



看護師等の労働環境改善に関するアンケート結果

看護職員の労働環境に関する実態を把握するため実施した「看護師等の労働環境改善に関するアンケート」につきまして、お忙し中ご協力いただき誠にありがとうございました。結果を取りまとめましたので、概要をお知らせします。

今後は、これらのアンケート結果を基に、皆さまが安全に安心して働き続けられる職場づくり、持続可能な働き方などについて検討を進めていきたいと考えております。

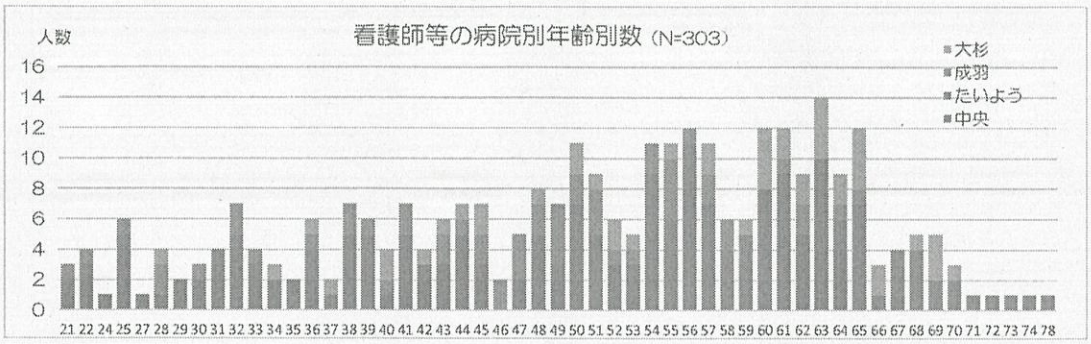
高梁市医療計画検討委員会

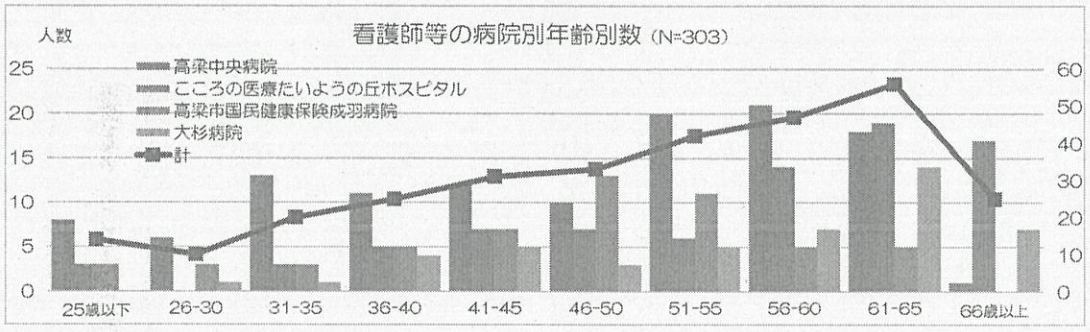
回収率

	対象	回収数	回収率
高梁中央病院	128	121	94.5%
こころの医療だいようの丘ホスピタル	88	83	94.3%
高梁市国民健康保険成羽病院	61	56	91.8%
大杉病院	47	47	100.0%
計	324	307	94.8%

問1　年齢(令和元年11月1日時点)

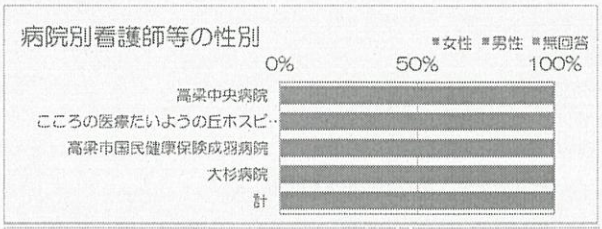
	25歳以下	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	61-65	66歳以上	無回答	計
高梁中央病院	8	6	13	11	12	10	20	21	18	1	1	121
こころの医療だいようの丘ホスピタル	3	0	3	5	7	7	6	14	19	17	2	83
高梁市国民健康保険成羽病院	3	3	3	5	7	13	11	5	5		1	56
大杉病院	0	1	1	4	5	3	5	7	14	7		47
計	14	10	20	25	31	33	42	47	56	25	4	307
	4.6%	3.3%	6.5%	8.1%	10.1%	10.7%	13.7%	15.3%	18.2%	8.1%	1.3%	100.0%





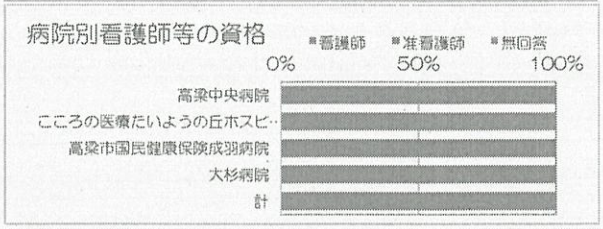
問2　性別

	人数			割合			人数計
	女性	男性	無回答	女性	男性	無回答	
高梁中央病院	115	6		95.0%	5.0%		121
こころの医療だいようの丘ホスピタル	73	9	1	88.0%	10.8%	1.2%	83
高梁市国民健康保険成羽病院	54	2		96.4%	3.6%		56
大杉病院	46	1		97.9%	2.1%		47
計	288	18	1	93.8%	5.9%	0.3%	307



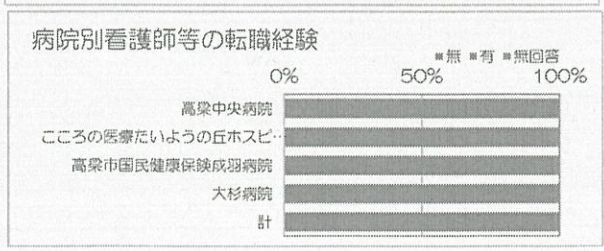
問3　資格

	人数			割合			人数計
	看護師	准看護師	無回答	看護師	准看護師	無回答	
高梁中央病院	99	22		81.8%	18.2%		121
こころの医療だいようの丘ホスピタル	41	40	2	49.4%	48.2%	2.4%	83
高梁市国民健康保険成羽病院	52	4		92.9%	7.1%		56
大杉病院	26	21		55.3%	44.7%		47
計	218	87	2	71.0%	28.3%	0.7%	307



問4　転職経験

転職経験	人数			割合			人数計
	無	有	無回答	無	有	無回答	
高梁中央病院	22	98	1	18.2%	81.0%	0.8%	121
こころの医療だいようの丘ホスピタル	16	64	3	19.3%	77.1%	3.6%	83
高梁市国民健康保険成羽病院	17	38	1	30.4%	67.9%	1.8%	56
大杉病院	7	39	1	14.9%	83.0%	2.1%	47
計	62	239	6	20.2%	77.9%	2.0%	307



転職回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	無回答	計
高梁中央病院	21	30	22	15	4	2	4	98
こころの医療だいようの丘ホスピタル	9	16	16	4	6	9	4	64
高梁市国民健康保険成羽病院	17	11	7	2			1	38
大杉病院	13	6	10	6	2	1	1	39
計	60	63	55	27	12	12	10	239
	25.1%	26.4%	23.0%	11.3%	5.0%	5.0%	4.2%	100.0%

問5　現在の職場を選んだ理由(複数回答)　(N=307)

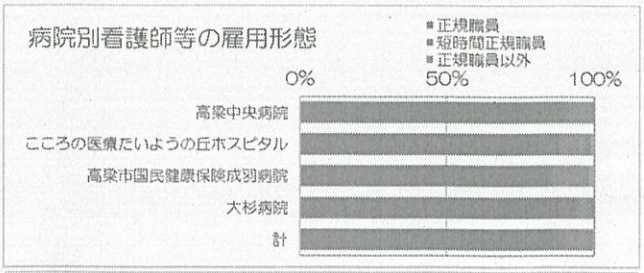
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
高梁中央病院	47	26	4		2	8	4	3		4	46
こころの医療だいようの丘ホスピタル	25	15	7		5	8	2	1	1	2	26
高梁市国民健康保険成羽病院	24	15	1		4	3	4	1		3	15
大杉病院	21	8	5					1			15
計	117	64	17	0	11	19	10	6	1	9	102

理由

1．高梁市が自身の出身地なので
2．高梁市が家族・親戚の出身地なので
3．高梁市に知人がいるので
4．高梁市に有名な先生がいるので
5．勤務先の労働環境が良いので
6．勤務先の給与・福利厚生が良いので
7．地域医療に興味があるので
8．高梁市に貢献したいので
9．派遣を命じられたので
10．奨学金の義務年限があるので
11．その他

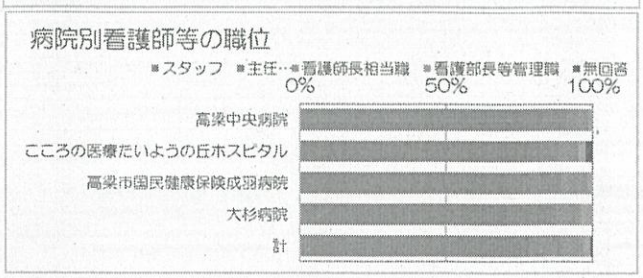
問6　雇用形態

	正規職員	短時間正規職員	正規職員以外	無回答	計
高梁中央病院	108	2	11		121
こころの医療たいようの丘ホスピタル	67	6	9	1	83
高梁市国民健康保険成羽病院	47	1	7	1	56
大杉病院	41	3	3		47
計	263	12	30	2	307
	85.7%	3.9%	9.8%	0.7%	100.0%



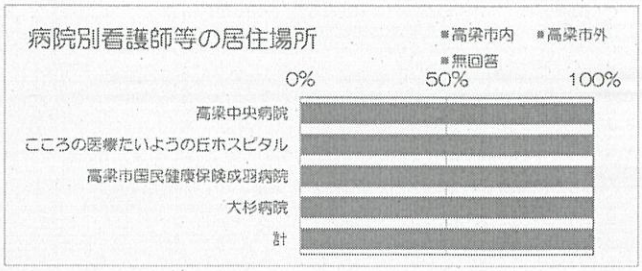
問7　職位

	スタッフ	主任相当職	看護師長相当職	看護部長等管理職	無回答	計
高梁中央病院	100	10	9	2		121
こころの医療たいようの丘ホスピタル	68	5	6	2	2	83
高梁市国民健康保険成羽病院	39	11	5	1		56
大杉病院	33	8	4	2		47
計	240	34	24	7	2	307
	78.2%	11.1%	7.8%	2.3%	0.7%	100.0%



問8　配属先

	病棟	外来	在宅ケア	その他	無回答	計
高梁中央病院	83	25	4	8	1	121
こころの医療たいようの丘ホスピタル	77	3	1	1	1	83
高梁市国民健康保険成羽病院	32	15	7	1	1	56
大杉病院	35	10		2		47
計	227	53	12	12	3	307
	73.9%	17.3%	3.9%	3.9%	1.0%	100.0%



問9　居住場所

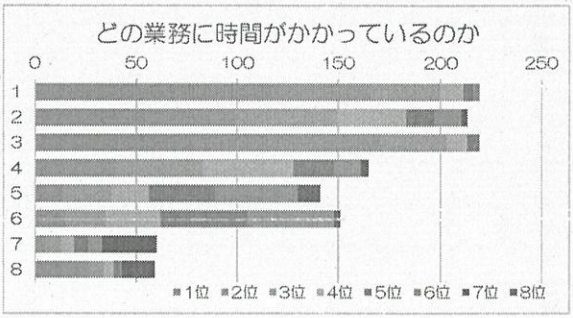
	高梁市内	高梁市外	無回答	計
高梁中央病院	82	39		121
こころの医療たいようの丘ホスピタル	54	28	1	83
高梁市国民健康保険成羽病院	50	6		56
大杉病院	41	6		47
計	227	79	1	307
	73.9%	25.7%	0.3%	100.0%

居住市町村

	総社市	吉備中央町	真庭市	新見市	倉敷市	岡山	その他	無回答	計
高梁中央病院	13	7	7	3	1		1	7	39
こころの医療たいようの丘ホスピタル	8	2	1	4	5	3	2	3	28
高梁市国民健康保険成羽病院	3			1	1		1		6
大杉病院		1	2	1				2	6
計	24	10	10	9	7	3	4	12	79

問11　あなたが行っている業務で一番時間を要している業務（順位づけ）（N=307）

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	無回答
1	117	49	34	11	5	3			88
2	54	45	51	33	14	13	3		94
3	79	92	32	10	6				88
4	8	32	43	45	20	13	4		142
5	3	11	24	18	33	41	9	2	166
6	3	12	20	27	43	43	3		156
7	1	4	8	6	7	7	26	1	247
8	14	12	8	5	3	1	5	11	248

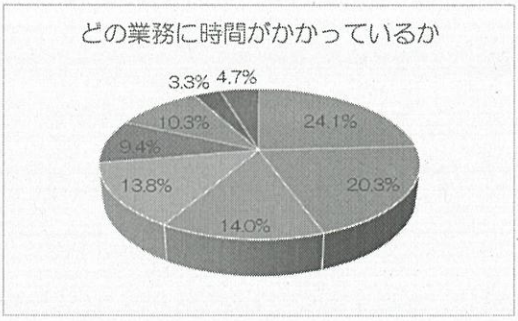


1.直接ケア（清潔、排泄、食事介助等）
2.診察・検査・処置等の介助
3.看護実践に関する記録（基礎情報（収集も含む））、看護計画、看護指示、サマリー等
4.診療報酬に関わる書類作成（入院診療計画書、看護必要度チェック・評価記録、退院療養計画書等）
5.患者・家族への教育・指導
6.チーム医療に関連するミーティング
7.必要性を感じない業務（具体的に：　　）
8.その他

時間を要する看護業務について順位1位の項目8点、2位を7点等8位を1点とし集計。これによって、日勤帯全体の中で各業務にどれだけ比重を割いているかを比較する目安とした。

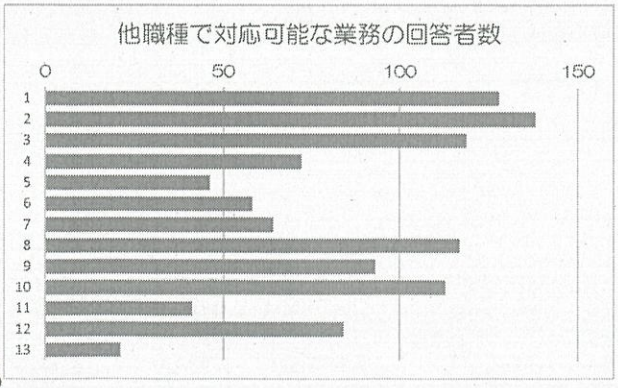
主観的な判断に基づいたもので、実際の業務時間の正確な指標とは言えないが、日頃の看護現場で聞かれる声をある程度反映しているものと考える。

	スコア	割合
1	1,567	24.1%
2	1,319	20.3%
3	910	14.0%
4	898	13.8%
5	610	9.4%
6	670	10.3%
7	216	3.3%
8	305	4.7%
計	6,495	100.0%

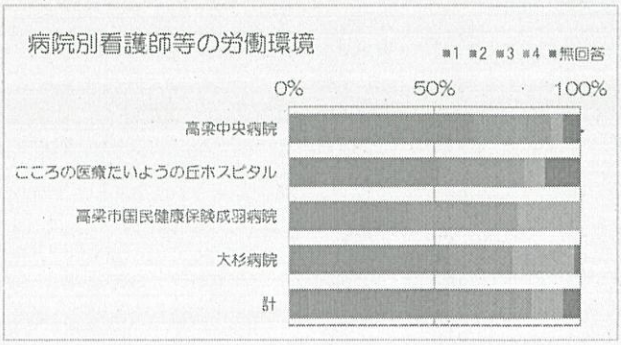


問12　あなたが行っている業務で他の職種で対応可能な業務と職種

	対応可能職種	回答数	無回答
1	看護助手、看護補助者、助手等	128	179
2	看護助手、看護補助者、助手等	138	169
3	看護助手、看護補助者、助手等	119	188
4	事務、クラーク、アシスタント等	72	235
5	看護助手、看護補助者、助手等	46	261
6	助手、看護助手、業者等	58	249
7	事務、クラーク、助手等	64	243
8	看護助手、看護補助者、助手等	117	190
9	看護助手、看護補助者、助手等	93	214
10	看護助手、看護補助者、助手等	113	194
11	看護助手、補助者等	41	266
12	看護助手、助手等	84	223
13	看護助手等	21	286



1.病室環境の調整、病床周辺の清掃・整頓　2.シーツ交換、ベッドメーキング（退院後、空床、離床可能な人）
3.リネン類の管理等　4.処置・検査等の伝票類の準備・整備、診療に必要な書類の整備
5.診療に必要な器械・器具等の準備、片付け　6.診療材料の補充・整理
7.入退院・転出入に関する業務等　8.食事に関する業務（配膳・集膳・下膳・食事介助・お茶等）
9.身体の清潔に関する業務　10.排泄に関する業務（オムツ交換、尿便器の洗浄等）
11.安心安楽に関する業務　12.移動・移送に関する業務
13.その他



問13　あなたの現在の労働環境について

	1	2	3	4	無回答	計
高梁中央病院	9	68	32	5	7	121
こころの医療だいようの丘ホスピタル	8	35	24	6	10	83
高梁市国民健康保険成羽病院	2	21	21	12		56
大杉病院	1	25	10	10	1	47
計	20	149	87	33	18	307
	6.5%	48.5%	28.3%	10.7%	5.9%	100.0%

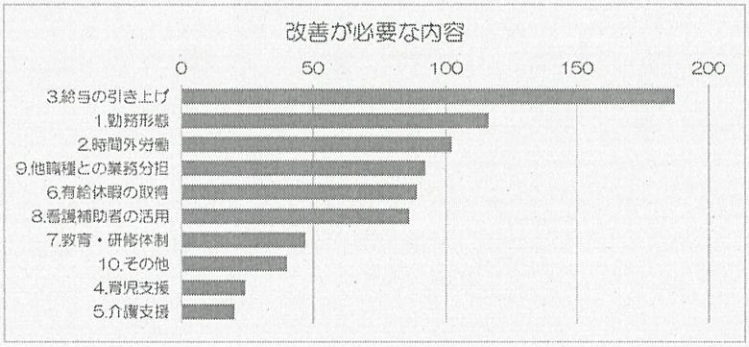
1．労働環境に満足しており、特に改善の必要は無い
2．改善してほしいが、現実的には難しいと思う
3．改善してほしい
4．労働環境を理由に退職を検討しており、早急に改善してほしい

問14　改善が必要な内容（複数回答）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
高梁中央病院	42	51	86	9	4	31	22	35	31	8
こころの医療だいようの丘ホスピタル	20	5	49	4	3	19	6	18	19	20
高梁市国民健康保険成羽病院	24	30	31	8	9	28	11	23	28	7
大杉病院	30	16	21	3	4	11	8	10	14	5
計	116	102	187	24	20	89	47	86	92	40

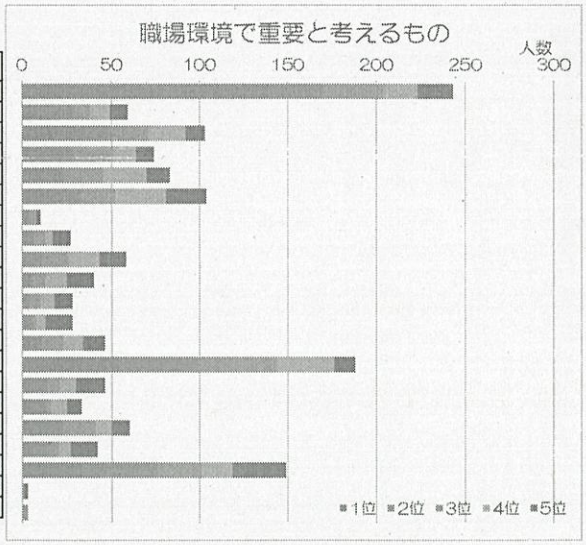
1.勤務形態　2.時間外労働　3.給与の引き上げ　4.育児支援　5.介護支援
6.有給休暇の取得　7.教育・研修体制　8.看護補助者の活用　9.他職種との業務分担　10.その他

項目	回答数
3.給与の引き上げ	187
1.勤務形態	116
2.時間外労働	102
9.他職種との業務分担	92
6.有給休暇の取得	89
8.看護補助者の活用	86
7.教育・研修体制	47
10.その他	40
4.育児支援	24
5.介護支援	20



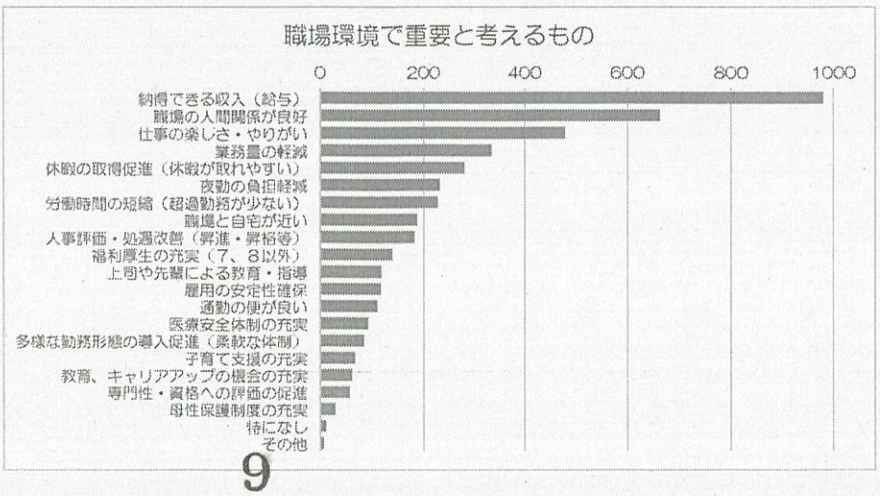
問16　職場環境で重要と考えるもの(1位～5位)（N=307）

項　目	1位	2位	3位	4位	5位	無回答
1 納得できる収入（給与）	139	31	35	18	20	64
2 人事評価・処遇改善（昇進・昇格等）	7	22	9	11	10	248
3 業務量の軽減	18	32	21	21	11	204
4 労働時間の短縮（超過勤務が少ない）	11	17	23	13	10	233
5 夜勤の負担軽減	11	12	22	25	13	224
6 休暇の取得促進（休暇が取れやすい）	10	23	19	29	23	203
7 母性保護制度の充実	1	3	3	1	2	297
8 子育て支援の充実	3	4	6	4	10	280
9 福利厚生の充実（7、8以外）	1	10	15	17	15	249
10 多様な勤務形態の導入促進（柔軟な体制）	1	5	7	12	15	267
11 教育、キャリアアップの機会の充実	1	3	6	8	10	279
12 専門性・資格への評価の促進	2	4	2	5	15	279
13 上司や先輩による教育・指導	4	7	12	11	12	261
14 職場の人間関係が良好	54	46	44	32	12	119
15 雇用の安定性確保	6	8	7	9	16	261
16 医療安全体制の充実	6	7	3	9	8	274
17 職場と自宅が近い	13	10	18	9	10	247
18 通勤の便が良い	6	9	5	7	15	265
19 仕事の楽しさ・やりがい	34	42	25	18	30	158
20 その他	1	0	0	0	2	304
21 特になし	1	0	2	0	0	304



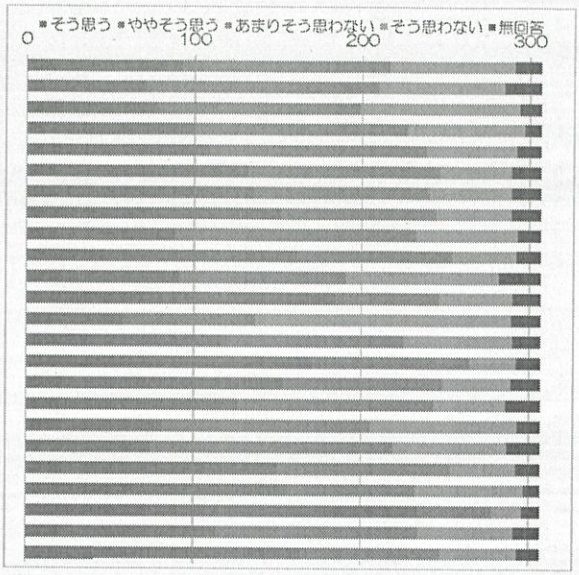
職場環境で重要と考えるものについて順位1位の項目5点、2位を4点等5位を1点として点数化して、重要と考えるものの順位を数値化し集計した。
主観的な判断に基づいたもので、正確な指標とは言えないが、日頃の看護師等が重要と考えられているものである程度重要性の高いものと考える。

項　目	スコア
1 納得できる収入（給与）	980
14 職場の人間関係が良好	662
19 仕事の楽しさ・やりがい	479
3 業務量の軽減	334
6 休暇の取得促進（休暇が取れやすい）	280
5 夜勤の負担軽減	232
4 労働時間の短縮（超過勤務が少ない）	228
17 職場と自宅が近い	187
2 人事評価・処遇改善（昇進・昇格等）	182
9 福利厚生の充実（7、8以外）	139
13 上司や先輩による教育・指導	118
15 雇用の安定性確保	117
18 通勤の便が良い	110
16 医療安全体制の充実	93
10 多様な勤務形態の導入促進（柔軟な体制）	85
8 子育て支援の充実	67
11 教育、キャリアアップの機会の充実	61
12 専門性・資格への評価の促進	57
7 母性保護制度の充実	30
21 特になし	11
20 その他	7



問17　あなたの職場や仕事について（N=307）

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
1.看護職員を大切にする組織である	16	77	123	75	16
2.今の勤務先は目先の利益にとらわれず、長期的な視点にたった経営をしている	10	61	139	75	22
3.今の勤務先の将来に不安はない	22	56	121	95	13
4.上下関係にこだわらず、主張すべきことを自由に話し合える	11	89	127	70	10
5.上司は自身の考え方や方針を十分に説明している	19	90	129	54	15
6.上司はあなたの考え方をよく聞いて、理解している	17	116	113	43	18
7.上司は仕事の成果について公正に評価している	15	121	104	49	18
8.上司は必要な時に、的確なアドバイスや支援をしている	25	127	92	45	18
9.看護ケアに費やす時間を十分にとることができる	18	70	144	61	14
10.必要に応じて休職が認められる	46	115	93	38	15
11.必要に応じて今の雇用形態のまま、短時間勤務に変更できる	22	69	100	91	25
12.有給休暇は必要に応じて取得できる	59	125	62	44	17
13.一週間程度の連続した休暇を必要に応じて取得できる	16	41	80	152	18
14.今の勤務先にできるだけ長く勤めたい	37	83	105	65	17
15.業務が終われば周囲に気兼ねなく帰ることができる	56	115	93	28	15
16.現在の仕事は、自分の能力を活かせる仕事である	22	132	94	41	18
17現在の仕事は、自分の能力向上の機会になっている	24	103	116	43	21
18.現在の仕事の量と仕事の内容に対して今の給与は妥当である	15	66	124	88	14
19.現在の仕事は、自分の描く将来像につながる仕事である	9	65	145	68	20
20.今の勤務先は能力開発の為の研修の実施、またはその参加を支援してくれる	22	128	103	39	15
21定時で終えることができる	68	88	76	65	10
22.勤務表作成時に個人の希望が通りやすい	72	162	44	18	11
23.現在の働き方に満足している	21	93	120	57	16
24.現在の生活（家庭生活・地域生活等）に満足している	40	125	82	46	14



医療関係者の皆様へ

本市では、様々な定住サポート事業を設けています。主な事業をご紹介します。

高梁市　主な定住サポート事業（令和２年度版）



情報発信

市外局番 0866

項　　目	内　　容	担当課(TEL)
スマホアプリ・高梁いんふぉ	「高梁市ホームページ」、「お知らせ通知」、「たかはし☆ナビ」、「アプリ・リンク集」を一つのアプリにまとめたもの。緊急情報、イベント情報等がプッシュ通知されます。【iphone用】【Android用】	秘書広報課 21-0210
移住・定住情報サイト「住もうよ高梁」	先輩移住者の体験談や移住Ｑ＆Ａ、定住支援制度等の情報を紹介しています。	住もうよ高梁推進課 21-0282
移住コンシェルジュ	移住希望者に対して、きめ細やかな相談や移住サポート、情報発信を行なうために専門の「移住コンシェルジュ」を配置しています。	住もうよ高梁推進課 21-0282
電子母子手帳アプリ	母子手帳と併用し、妊娠・出産・子育ての記録をスマートフォン等で管理できる電子手帳アプリを導入しています。	健康づくり課 21-0228



住まい

市外局番 0866

項　　目	内　　容	担当課(TEL)
空き家情報バンク制度	市内の空き家を有効活用するため台帳に登録し、空き家情報を提供しています。	住もうよ高梁推進課 21-0282
空き家バンク活用促進助成金（空き家再生助成事業）	空き家情報バンク登録物件を対象に、家財処分・賃貸物件の改修に対して助成金を交付します。※家財処分：補助率2/3（上限20万円）　賃貸物件の改修：補助率1/3（上限50万円）	住もうよ高梁推進課 21-0282
空き家バンク活用促進助成金（家賃助成事業）	空き家情報バンク登録物件へ入居する40歳以下の者を含む世帯（単身世帯を除く）に家賃助成金を交付します。月額1万円を最大1年間支給	住もうよ高梁推進課 21-0282
住宅取得助成事業	１５歳以下の子を養育している方、若しくは４０歳以下の方を対象に、住宅の新築・取得に対して助成金を交付します。 ・住宅の新築：用地購入代金の1/10（上限100万円）　＋　世帯構成等により15～60万円 ・中古住宅又は建売住宅の取得：購入代金の1/10（上限100万円）	住もうよ高梁推進課 21-0282
住宅リフォーム助成事業（子育て世帯）	１５歳以下の子を養育している方を対象に、住宅のリフォームに対して助成金を交付します。 補助率1/10（上限50万円）	住もうよ高梁推進課 21-0282
地域優良賃貸住宅整備事業	市において子育て世帯向け賃貸住宅（一戸建て）を整備しています。	都市整備課 21-0237



結婚・出産

市外局番 0866

項　　目	内　　容	担当課(TEL)
まちづくり結婚推進事業	独身男女の出会いのイベントを年間４～５回開催しています。	住もうよ高梁推進課 21-0282
縁結びサポーター制度	独身男女の出会いの仲介から結婚に至るまでの支援をボランティアでしていただける個人・団体・企業を「縁結びサポーター」として登録。サポーターへの成婚奨励金やサポーター団体間の独身男女交流会への助成金により縁結び活動を支援します。	住もうよ高梁推進課 21-0282
新婚世帯家賃助成事業	市内の民間住宅に入居する新婚世帯に対して家賃助成金を交付します。 月額１万円を最大１年間支給	住もうよ高梁推進課 21-0282
住宅リフォーム助成事業（新婚世帯）	新婚世帯を対象に、住宅リフォームに対して助成金を交付します。 補助率1/10（上限50万円）	住もうよ高梁推進課 21-0282
風しん予防接種費用助成事業	妊娠を希望される女性とその配偶者、妊娠中の女性の配偶者に対し、風疹抗体価が低い場合、事後申請により予防接種費用の助成が受けられます。 風しんワクチン5,000円、麻しん風しん混合（MR）ワクチン7,000円　※いずれも助成上限額。	健康づくり課 21-0228
不妊症・不育症治療費助成	特定不妊治療を受けた場合の治療費を全額補助します。（ただし岡山県の助成額あるいは15万円を控除した額を除く。）　不育治療においては、助成対象治療額の2分の1の額で、1年度30万円の上限とします。※対象者の所得要件があります。	健康づくり課 21-0228
ママ・サポート１１９（妊婦事前登録制度）	妊婦さんの希望により、出産予定日、出産予定医療機関等の情報を高梁市消防へ事前に登録して、緊急時に救急車を利用する際の１１９番通報や医療機関への連絡・搬送をスムーズに行います。	健康づくり課 21-0228
出産祝金	お子様の誕生をお祝いし、将来の健やかな成長を願い出産祝金を支給します。 第１子・第２子：20,000円　第３子以降：30,000円	市民課 21-0254
妊婦健康診査	妊婦一般健康診査のうち、国が定める検査項目が無料となる受診券を１４回分交付します。 （多胎妊娠の場合は、14回に追加して5回まで無料となります。）	健康づくり課 21-0228
妊婦歯科健診	妊娠中の歯科健診が1回無料となる受診券を交付します。（母子手帳交付時に受診券交付）	健康づくり課 21-0228
産婦健康診査	おおむね産後２週間および産後１か月の産婦を対象に、健康診査にかかる費用を助成しています。 産後の心と体の健康を確認しましょう。	健康づくり課 21-0228
産後ママ安心ケア事業	産後の母子が一定期間、医療機関や助産院の助産師等から、産婦の乳房ケアなどの健康管理や授乳・沐浴など育児の保健指導や相談を受けられます。 ①宿泊型ケア：産後4ヶ月以内の母子が、宿泊してサービスを受ける。（通算7日以内） ②日帰り型ケア：産後4ヶ月以内の母子が、日帰りでサービスを受ける。（通算7日以内） ③母乳育児相談：産後12ヶ月以内の母子が、1時間程度のサービスを受ける。（通算4回以内）	健康づくり課 21-0228

子育て



市外局番 0866

項　　目	内　　容	担当課(TEL)
ママサポ（助産師・保健師）	子育てを切れ目なく支援するママサポ助産師（保健師）を設置し、妊娠・出産・育児までの総合的な相談を受けています。	健康づくり課 21-0228
産後ヘルパー	身の回り、家事、育児が困難な出産直後の家庭に産後ヘルパーを派遣します。	こども未来課 21-0288
病後児保育	保護者の就労等により、家庭での保育が困難な病後の児童を一時的に保育します。 ※病児保育・・・岡山県病児保育広域相互利用に基づき該当施設を利用できます。	こども未来課 21-0288
子ども医療費	子ども医療費を無料化しています。（１８歳までの保険診療自己負担分を全額市が負担）	こども未来課 21-0288
スクラム作戦	乳幼児期から成人期まで、発達障害等のある人に対し関係者が連携し個別に支援を実施します。	こども未来課 21-0288
子育て応援企業	雇用する従業員や地域の子育てを応援する企業等を「パパ・ママ・子育て応援企業」として登録し、市内外に広く紹介するとともに、一定の条件を満たした企業等には奨励金を交付しています。	こども未来課 21-0288
ファミリーサポート事業	子どもの一時的な預かり援助を希望する人と当該援助を行うことを希望する人との相互援助活動を行います。	こども未来課 21-0288
一時預かり事業（一般型）	家庭での保育が困難となった場合に、一時的に保育士や保育補助員等が子どもをお預かりします。	こども未来課 21-0288
給食提供・延長保育	市内のすべての幼稚園・保育園・こども園で、給食の提供を行っています。また、すべての保育園・こども園で、延長保育を行っています。	こども未来課 21-0264
預かり保育・学童保育	幼稚園での預かり保育の実施、全ての小学校区で学童保育を実施しています。	こども未来課 21-0264
保育料の減免	第３子以降の保育料の無償化、低所得者世帯を対象とした第３子以降の０～２歳児の保育料の無償化を導入しています。	こども未来課 21-0264
子育て支援センター（ゆう・ゆうひろば）	就学前のお子さんと保護者の方が、気軽に集まってゆったりと遊んだり交流ができます。 また、子育ての相談に応じているほか、子育てのための研修や親子で楽しめるミニイベントも行っています。	こども未来課 21-0288
遠距離通学支援	小・中学生の遠距離通学に対しスクールバスの運行やバス代補助等を実施しています。	学校教育課 21-1509
高校生バス通学支援	高校生がバスで通学する際に必要な通学定期券購入費の半額を助成します。	市民課 21-0254

教　育



市外局番 0866

項　　目	内　　容	担当課(TEL)
特別支援員等の配置	様々な障害のある児童・生徒に対し、学校生活が円滑に送れるように支援を行っています。	学校教育課 21-1509
特色ある学校づくり	地域の人材や資源を活用し、各学校園で特色ある学校づくりを推進しています。	学校教育課 21-1509
ふるさと高梁学習の推進	山田方谷などの郷土の偉人や、備中松山城、吹屋ふるさと村、備中神楽などの高梁のすばらしい歴史や伝統文化を積極的に学習に取り入れ、ふるさと高梁を愛する心を育てています。	学校教育課 21-1508
私立学校入学奨励金	本市に住所を有する場合、市内私立学校の入学金を全額又は半額助成します。	企画政策課 21-0208

就労・起業等



市外局番 0866

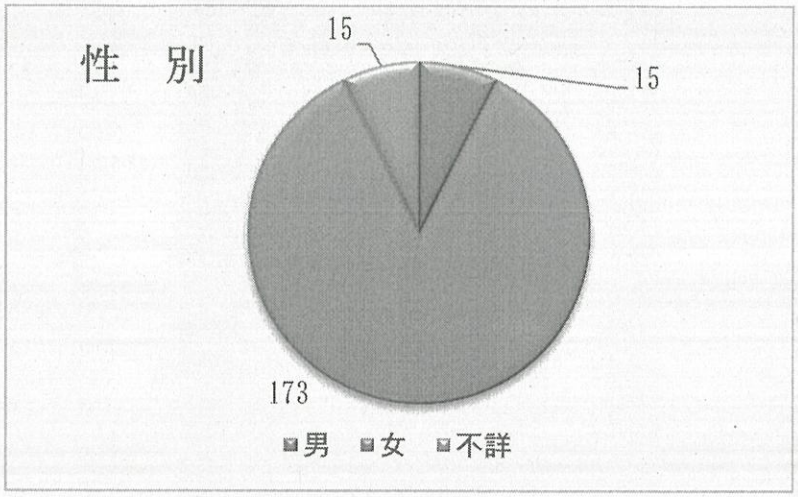
項　　目	内　　容	担当課(TEL)
介護員研修受講支援事業助成金	介護員養成研修修了者で市内の介護保険事業所に勤務する意思のある者に研修費用の一部を助成します。	介護医療連携課 21-0299
介護福祉士養成修学支援事業費補助金	介護福祉士の資格取得を目指す学生に対して、介護施設等が実施する奨学金貸付等就学支援に係る経費の一部を助成します。	介護医療連携課 21-0299
看護師等奨学金貸付	資格取得後、市内で看護師、保健師、又は助産師として貸付けの１．５倍に相当する期間勤務した場合、奨学金の返還を免除します。	介護医療連携課 21-0304
医学生奨学金貸付	臨床研修等修了後、市内で医師として一定期間従事した場合、奨学金の返還を免除します。	介護医療連携課 21-0304
高梁市奨学金貸付	高梁市奨学金の返還者が市内に一定期間居住している場合、奨学金の返還を免除します。	教育総務課 21-1500
若者定着奨学金返還支援助成事業	独立行政法人日本学生支援機構奨学金を受けた大学生等が、卒業後に正規雇用（公務員を除く）により就職し市内に定住すること等の一定の条件を満たす場合に奨学金の返還を助成します。	企画政策課 21-0208
高梁市人材確保U・Iターン支援事業助成金	平成30年5月1日以降に市内へ転入し、一定の職種において、市内に所在する事業所等に就職したU・Iターン者に対し、引越費用や賃貸住宅の契約に要する仲介手数料及び礼金の一部を助成します。※補助率2/3（上限20万円）	住もうよ高梁推進課 21-0282

令和元年度高梁市医療・介護市民公開講座　アンケート結果について

参加者約４５０名に対して、回答者２０３名となり、有効回答率は約４５％であった。

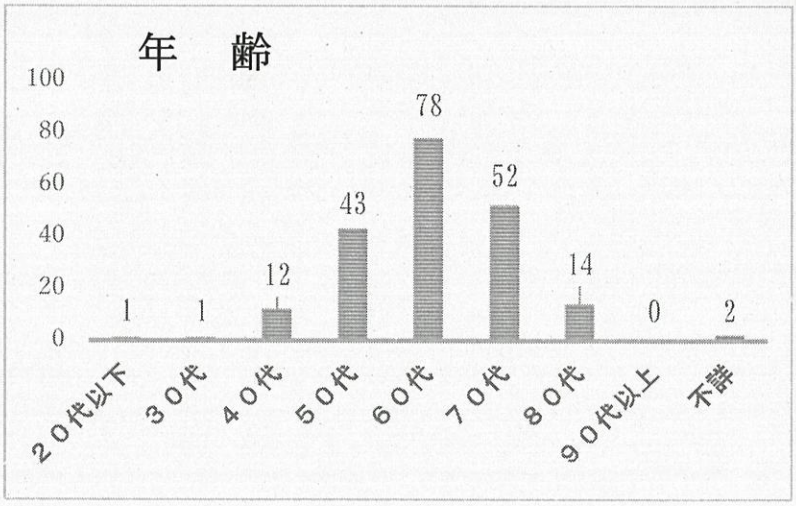
１－１）　性別

男	15
女	173
不詳	15
合計	203



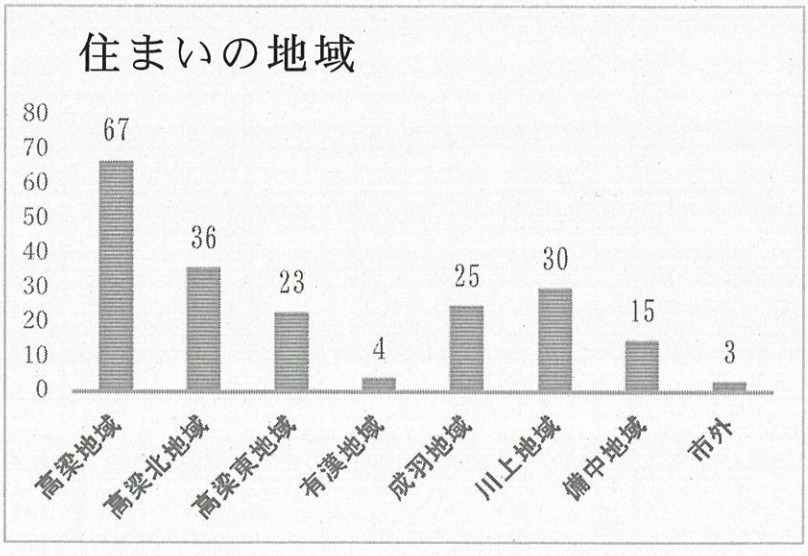
１－２）　年齢

２０代以下	1
３０代	1
４０代	12
５０代	43
６０代	78
７０代	52
８０代	14
９０代以上	0
不詳	2
合計	203



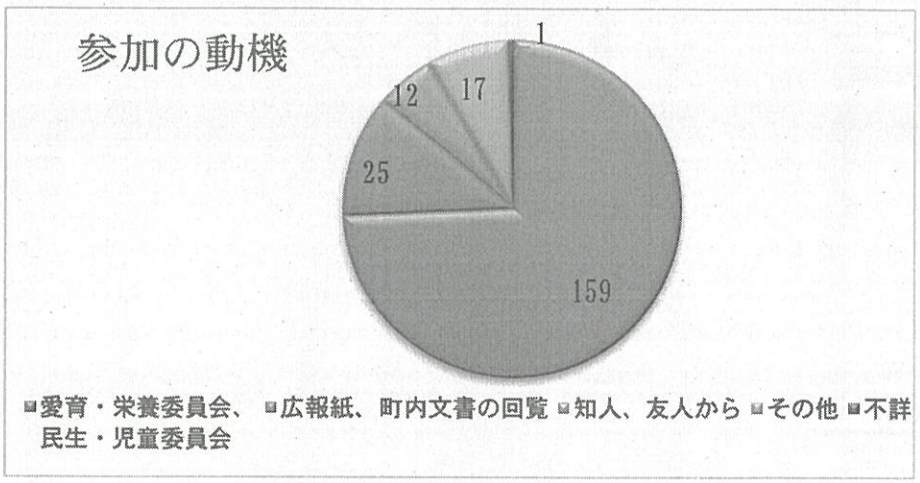
１－３）　どの地域にお住まいですか

高梁地域	67
高梁北地域	36
高梁東地域	23
有漢地域	4
成羽地域	25
川上地域	30
備中地域	15
市外	3
合計	203



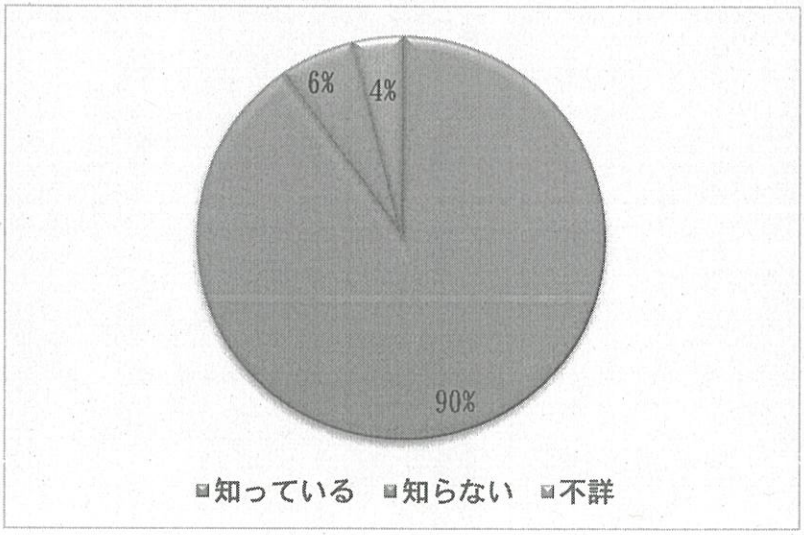
1－4）　本日の市民公開講座の開催は、何から情報を得ましたか

愛育・栄養委員会、民生・児童委員会	159
広報紙、町内文書の回覧	25
知人、友人から	12
その他	17
不詳	1
合計	214



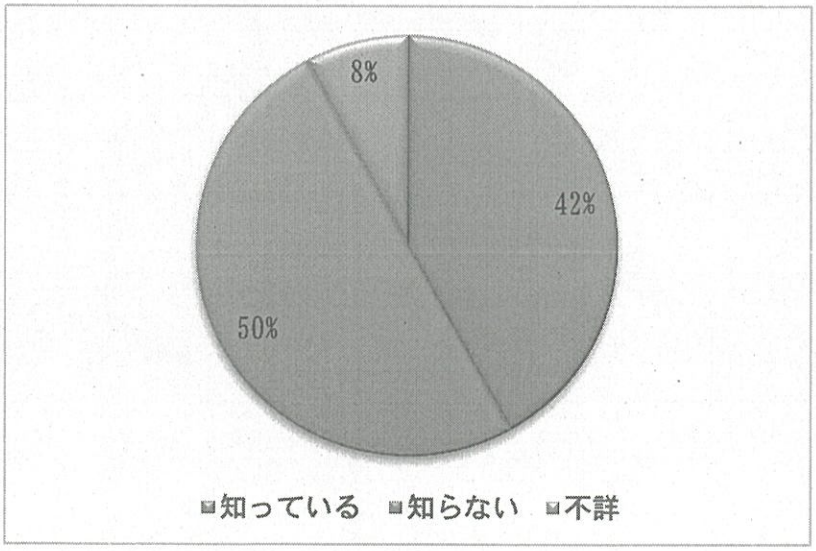
2－1）－1　市内で在宅医療を受けられることを知っていますか

知っている	183
知らない	12
不詳	8
合計	203



2－1）－2　人生会議（ACP）について知っていましたか

知っている	85
知らない	102
不詳	16
合計	203



２－１）－３　寸劇についてのご意見ご感想をお書きください

アンケートへ回答いただいた方のうち、１４７名からの記述があった。主な回答は次のとおり。

寸劇が高評価（１４０件）

・現場で地域の人々の幸せを願い働いてくださっている方々の演技がとても分かりやすかった。

・皆さんの役割が分かりやすく説明されて在宅医療を行うにあたり、たくさんのスタッフの話し合いが行われるのは心強い。介護連携のシステムをうれしく思う。

・在宅医療の在り方が寸劇にてわかりやすかった。

・一人の方を地域の色々な分野の方で支える素晴らしさに感動した。医療と介護でその人の人生がサポートされていると感じた。

・自分の親の状況と重なることもあり参考になった。

・ACP について自宅でも取り組んでいきたい。

・高梁の医療に関心を持った。

来年が楽しみ（１４件）

・今後やまじいがどんな経過をたどるのか次回が楽しみ。

・皆さん演技が上手で「そうだ、そんなことある、ある」と頷きながら聞いた。次回が楽しみ。

在宅医療への不安・提案（８件）

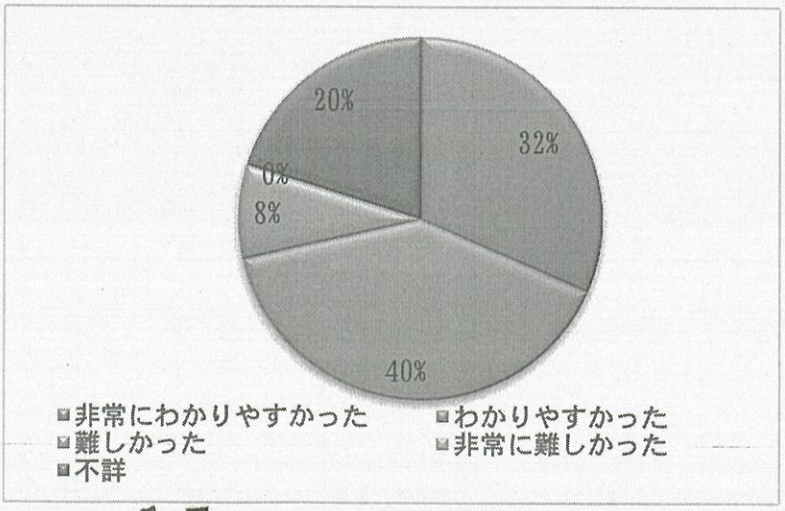
・担当者会議には薬剤師も必要だと思う。

・福祉委員、栄養委員も何か関われることはないか。

・本当は中々相談しにくい状況であり、寸劇どおりにはうまくはいかないと思う。また、やまじいはカメラの趣味があったが、中々目標も見つけにくい。

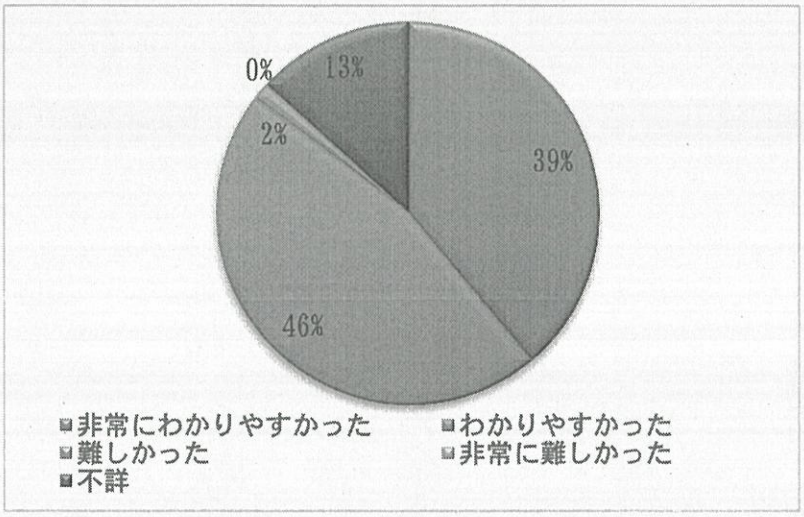
２－２）－１「測ってますか？骨密度」の講演内容はわかりやすかったですか

非常にわかりやすかった	64
わかりやすかった	81
難しかった	17
非常に難しかった	0
不詳	41
合計	203



２－２）－２　「大杉病院の紹介」の内容はわかりやすかったですか

非常にわかりやすかった	79
わかりやすかった	94
難しかった	3
非常に難しかった	0
不詳	27
合計	203



２－２）－３　今後、大杉病院に期待する事や要望等がありましたらお聞かせください

アンケートへ回答いただいた方のうち、６３名からの記述があった。主な回答は次のとおり。

大杉病院の認知度向上（２８件）

・今回の紹介で取り組んでいることがよく分かった。市外の総合病院にかかっているが貴院にお世話になる日が近いのではと思った。

・リハビリは岡山市内しかダメだという思いがあったが、高梁で出来るようになれば心強い。

・病院は患者にとって生活の場であることを考え、設備が行きとどいている。病院から眺められる景色もすばらしい。社会復帰を考え、リハビリに力を入れていることがすばらしい。

・介護医療院に関心を持った。

・時代の流れを読んで新しい時代にマッチした医療を模索されていることに感心した。

大杉病院への期待（２３件）

・地域医療をより高度、より丁寧にスタッフの方々が心構えていることに感心した。職員さんの前向きなまとまりの良さにも温かさを感じた。

・最後まで楽しく生活するためには、自分の身体がスムーズに動かせることが大切であり、大杉病院の役割はとても重要な部分を担っていると思う。今後の発展を期待したい。

・今後の介護医療院に期待している。これからも地域医療のために頑張って欲しい。

大杉病院への要望（２０件）

・待ち時間を短くして欲しい。

・整形外科が予約いっぱいで急な診療は難しいと言われることを改善して欲しい。

・在宅介護へ向けて訪問診療にも力を入れて欲しい。

・産科を設置して欲しい。

・口腔ケアの大切さをもっと知らせると歯科の大切さがより栄えると思う。

・地域に根差した病院として専門のスキルをさらに向上していただくことを期待。

3　全体を通じて講演内容に関するご意見や次回に向けて要望等がありましたらお聞かせください

アンケートを回答いただいた方のうち、４６名からの記述があった。主な回答は次のとおり。

高梁市の医療に関する認知度向上（２７件）

・安心して生活ができる高梁市が、人口減少でもより豊かにまとまるよう念じている。住みやすい高梁市へのプラスの取り組みがありがたい。

・高梁市の医療機関を知ることが出来て安心した。これからもしっかり頑張って欲しい。公開講座に参加して良かった。充実した休日になった。

・高梁市の医療についてよく分かるとても有意義な市民講座だった。特に大杉病院の全てがわかり良かった。もしもの時の安心感が得られた。骨密度も低下しないように気を付けていく。

・高梁医師会の「高梁の医療」の DVD が見られて良かった。地域医療の取り組みがよく分かって参考になった。（３件）

次回の寸劇が楽しみ（４件）

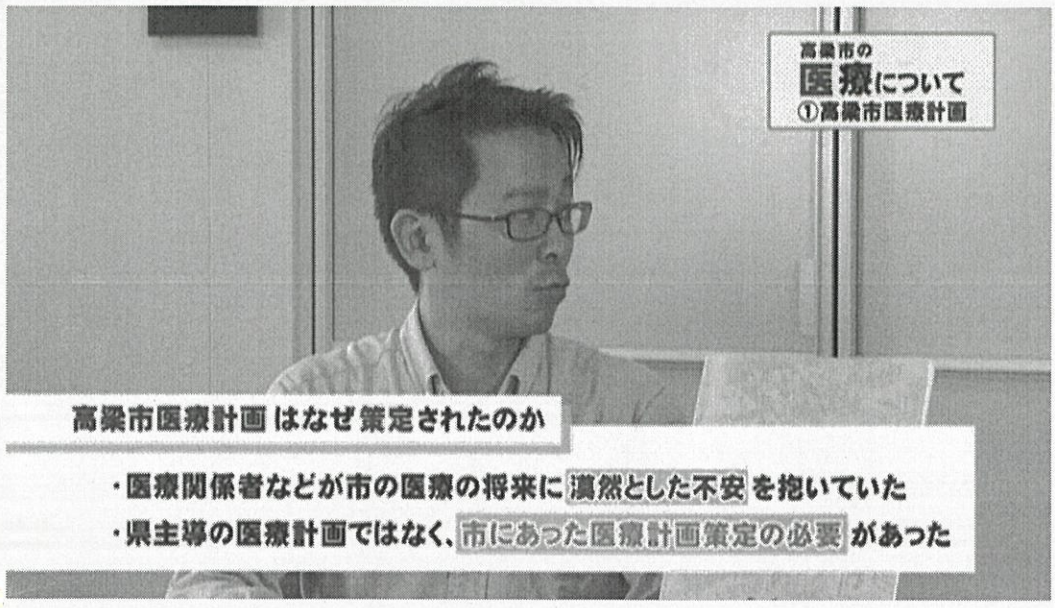
・やまじいのその後が楽しみ。

市民公開講座への要望（１２件）

・インフルエンザ、コロナウィルスと季節的に公開講座を計画される時期が悪い。ぜひ次回は他の時期に開催して欲しい。（３件）

・すばらしい内容なので、市民公開講座に来られなかった方にも、吉備ケーブルテレビなどを通じてニュースだけでなく、広く伝えていく必要さを感じた。

令和元年度　行政放送



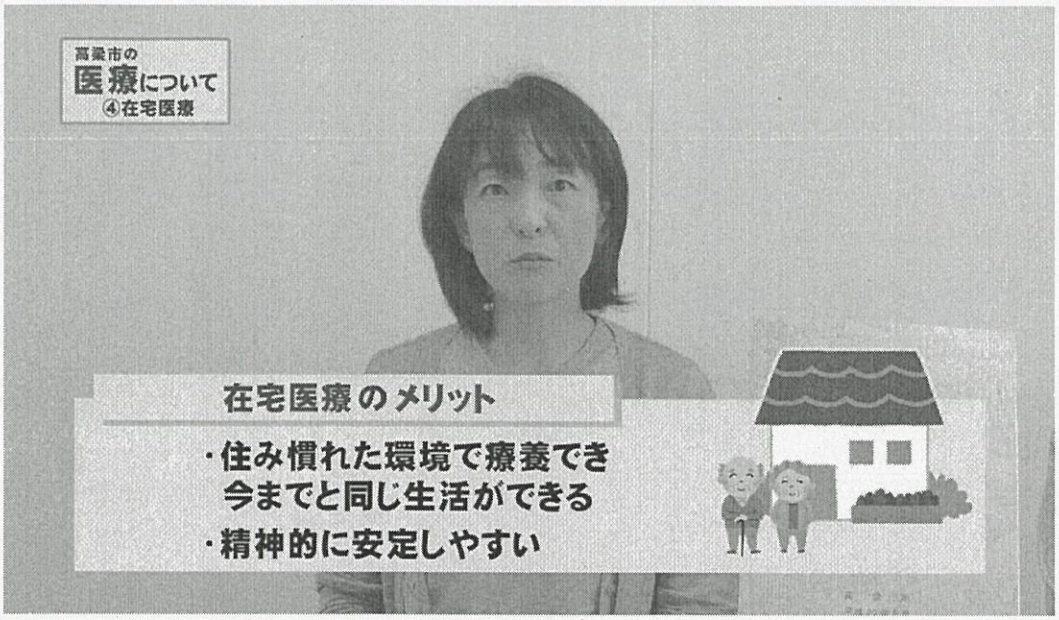
2019.7.22～7.28 放送



2019.8.12～8.18 放送



2019.9.2～9.8 放送



2019.10.14 ～ 10.20

放送



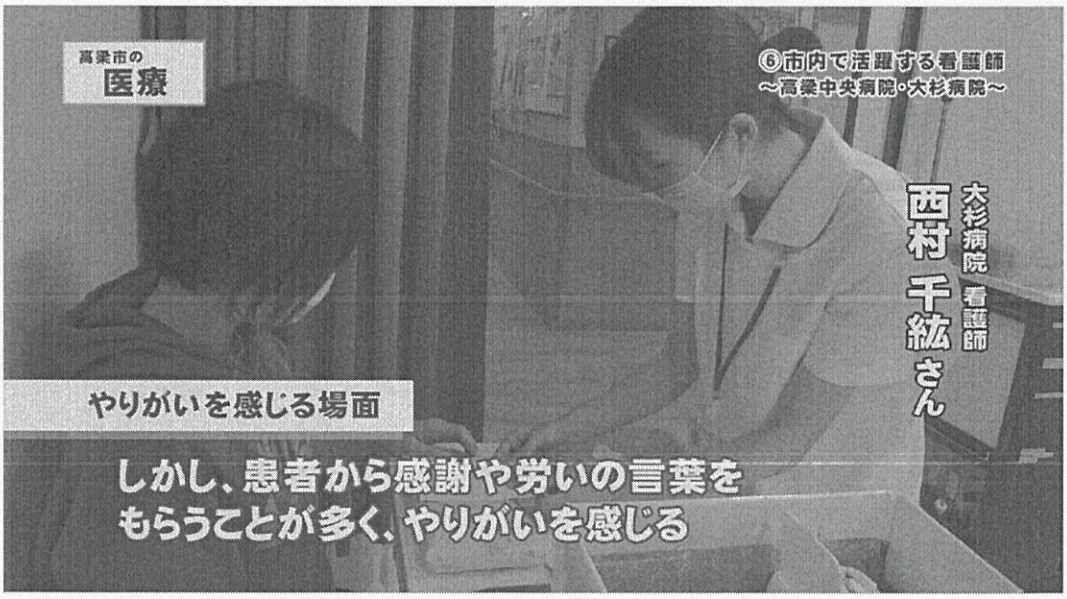
2019.11.11 ～ 11.17

放送



2019.12.9～12.15

放送



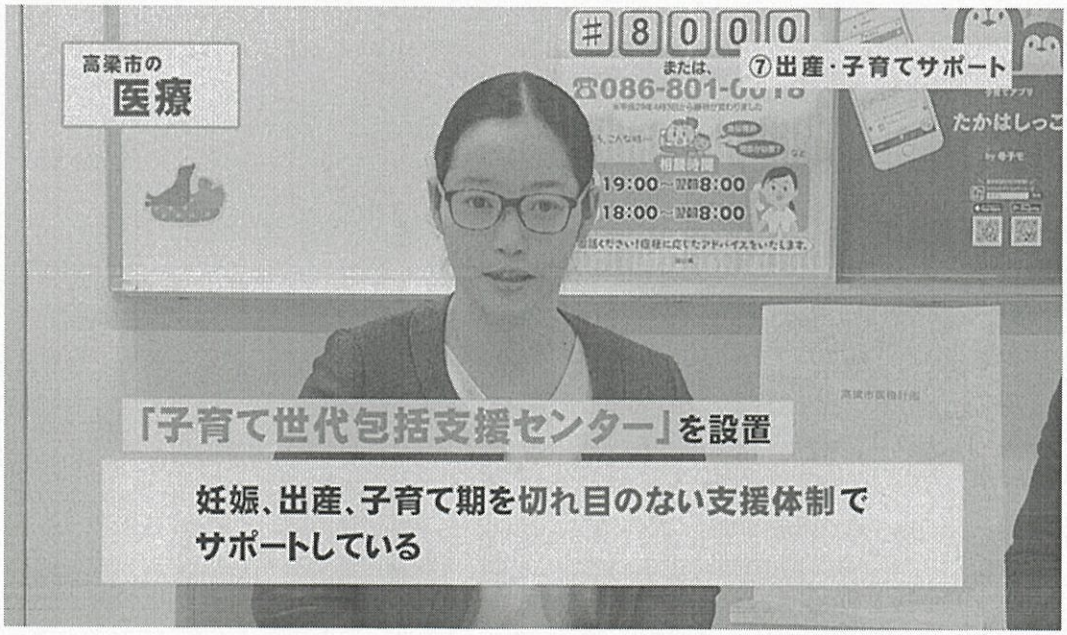




2019.12.16～12.22

放送





2020.1.20～1.26

放送



2020.3.9～3.15

放送





2020.3.23～3.29

放送

※高梁市ＨＰやユーチューブから閲覧可能

令和元年度　広報たかはし

高梁2025“地域医療はまちづくり”①

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

平成30年5月に市独自の高梁市医療計画を策定しました。計画に基づく施策について、高梁市医療計画検討委員会で検討・合意し推進しています。今回は、市内病院の役割分担についてお知らせします。

高梁市内病院の役割分担

○市内の4病院では、次の特徴を生かして医療を提供し、患者の状況に応じて紹介を相互に行っています。また、診療所からの紹介も積極的に受け入れています。
○入院治療後の患者がスムーズに在宅生活へ戻ることができるように、診療所と連携します。
○市内で医療を受けることができる体制を整備するとともに、市外医療機関との連携も強化します。

	急性期	
市西部	**成羽病院**　主に市西部の在宅医療、へき地診療を支える ○公立病院として責任を持つ医療の提供 ○へき地医療拠点病院としてへき地診療を支える ○消化器疾患の専門医が多い ○訪問看護ステーション、訪問リハビリ、地域包括ケア病床により地域とつながる	**高梁中央病院**　救急・急性期疾患の対応 ○高梁新見医療圏のがん診療、災害拠点病院 ○消化器外科、整形外科の手術を強化　○循環器、脳神経外科疾患の地域拠点　○入院での人工透析が可能 ○内視鏡センターが充実　○急性期から慢性期までのリハビリ・地域包括ケア病床により地域とつながる **こころの医療たいようの丘ホスピタル** 高梁新見医療圏内唯一の精神科病院 ○県指定の認知症疾患医療センター ○心の医療を支える	市東部 **大杉病院** 主に市東部の在宅医療を支える ○通院時からの通所リハビリ、退院へ向けての回復期リハビリを支援 ○グループ内の介護施設と連携して在宅医療を推進 ○病院の歯科による口腔ケア、嚥下ケア、誤嚥性肺炎への対応　○訪問リハビリ、地域包括ケア病床により地域とつながる
	慢性期	

市ホームページ「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

問医療連携課☎(21)0304

（8月号）

看護の魅力ガイダンスに参加して　～私は将来何をすべきか～



黒澤 美優さん（吉備国際大学看護学科1年）

地域医療の魅力UP紹介事業として企画された「看護の魅力ガイダンス」を吉備国際大学で受講しました。ガイダンスを通して、中山間地域の高梁市では将来を見据えた取り組みが行われており、看護師として地域の皆さんとのつながりができることが魅力だと感じました。将来については病院勤務の看護師しか考えていませんでしたが、新たに訪問看護や特別養護老人ホームの看護師にも興味を持つことができました。

また、高梁市が「住みたい田舎ランキング2019＜子育て世代が住みたい部門＞小さなまち」で全国7位になっていることに驚きました。これは看護師や保健師などが地域のために働きかけ、地域の皆さんとのつながりがとても強いことが魅力の一つとなっているのだろうと思いました。少子高齢化が進み看護師などの医療従事者が減少しているからこそチーム医療が大切であり、多職種チームで連携をとりながら患者一人一人に合った治療法を提供することがさらに必要ではないでしょうか。



看護の魅力ガイダンスの様子（7月1日）

今回の受講を機に、何をすれば地域の皆さんが健康で暮らすことができるようになるのか、何を必要としているのかを考えながら、看護師・保健師の資格取得に向けて日々努力していきたいと強く感じました。

問医療連携課 ☎(21)0304

（9月号）

高梁2025“地域医療はまちづくり”②

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

人生会議(ACP)について

だれでも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。

命の危険が迫った状態になった人のうち約70%は、医療・ケア(支援)の方法を自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。

もしものときのために、本人が望む医療・ケアについてあらかじめ考え、話し合い、共有する取り組みのことを「人生会議(ACP：アドバンス・ケア・プランニング)」と呼びます。

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会では、「人生会議(ACP)」の普及・啓発を行っています。9月25日には多職種携連研修会を開催し、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員、社会福祉士など69人が参加しました。また、11月16日(土)に市民向けの講演会「看取りでの経験を語る会～人生の最終段階の過ごし方と在宅医療を考える」(P28参照)を企画していますので、ぜひご参加ください。



市ホームページ「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

問医療連携課☎(21)0304

(１０月号)

「高梁市健康福祉のつどい」に参加して



村上(むらかみ) 裕香(ゆうか)さん
(吉備国際大学看護学科4年)

「住み慣れた地域で豊かに過ごしたい」という思いを支えるために、医療関係者が住民の希望を最優先に活動する中で、地域全体を対象とした保健活動を行う看護職が「保健師」です。

10月12日に開催された「健康福祉のつどい」に保健師を目指す吉備国際大学の学生15人が参加し、骨密度測定のブースを担当しました。骨密度の測定結果を基に生活を振り返る個別指導では、一人一人の生活スタイルをしっかり聞くことが求められました。骨密度維持のためには運動を続けることが大切ですが、体へ過度な負担がかかることを勧めることはできません。また、生活習慣を見直してそれを実践していただくためには、住民の生活環境を知るとともに、住民に健康であってほしいという強い思いを持つことが大切だと思いました。

住民同士の関係性や絆が強い中山間地域では、一人一人に手厚い支援ができることが魅力の一つだと思います。



「健康福祉のつどい」の様子

今回参加して、住民の方との触れ合いや交流を通して地域全体のつながりを理解できたことは、大変有意義な体験になりました。学生が行った骨密度測定や結果説明には不十分なところもあったかもしれませんが、地域の方と関わることができた良い機会となりました。

問医療連携課 ☎(21)0304

(１１月号)

高梁2025“地域医療はまちづくり”③

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

看護師の確保について

【市内の現状】

40人以上の看護師不足
看護師の約6割が50代以上 → 市内の看護師不足・高齢化は **危機的状況**

【看護師確保に向けた取り組み】

幼い頃から郷土愛を育み、地域医療への関心を高める取り組み(小学生～高校生)

●「たかはし広がる子どもの夢事業」で医療現場を体験

●方谷学「高梁を知る」で、高梁市の医療について授業を実施(高梁高校)

市内で働く看護師の養成に向けた取り組み(大学・専門学校の学生など)

●「高梁市看護師等養成奨学金」を周知するため、県内の看護師養成学校を訪問

●市内4病院を巡る見学ツアーの実施

市内で働く看護師のスキルアップに向けた取り組み(看護師)

●高梁かんごねっと(事務局：高梁医師会)によるリーダー育成研修や認知症研修、皮膚・排せつケア研修など専門研修の充実


広がる子どもの夢事業


市内4病院見学ツアー

市ホームページ「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

問医療連携課☎(21)0304

(12月号)

市内医療機関などでの実習を通して感じたこと


野嶋(のじま) 京香(きょうか)さん
(吉備国際大学看護学科4年)

高梁中央病院の実習に参加し、患者さんの退院支援について学びました。

病院の地域連携室では、退院に向けた支援計画を作成するために、患者さんが入院する前から関わり、自宅に戻る際の問題点などを把握しています。また、多職種が治療の方向性を話し合う「カンファレンス」では、それぞれの職種の考えをまとめたり、患者さんや家族の思いを代弁したりしています。このことから、地域連携室は関係機関を連携させる窓口であり、患者さんが安心して生活できるように病院と地域の橋渡しの役割も担っていることが分かりました。

在宅介護支援センターでの実習では、退院後に自宅で安全に生活できるかを確認するための住宅調査に同行しました。市内には一軒家が多く、それぞれの家で特徴が異なります。患者さんやその家族も一緒に、退院してから自宅で生活するための問題点(段差やトイレ・お風呂など)はどこか、福祉用具や手すりなどをどこに設置すれば良いか、また、自宅での生活を想定して必要なリハビリテーションは何かなどを細かく話し合っていました。


実習の様子

今回の実習を通して、今までは患者さんの疾患ばかりに目が向いていましたが、患者さんの生活背景や思いを理解し、広い視点で見ることの大切さを考えることができました。

問医療連携課 ☎(21)0304

(1月号)

高梁2025“地域医療はまちづくり”④

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

医師の確保対策ついて

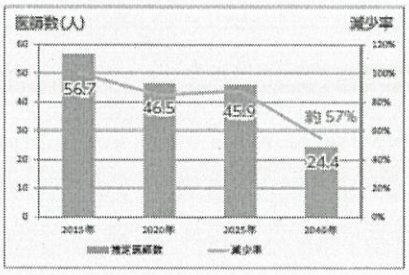
高梁・新見保健医療圏の状況

●医師の配置状況を示す調査結果（厚生労働省公表）では、全国の医療圏３３５のうち下から６番目と全国的に見て特に医師が不足

●岡山県が策定中の「岡山県医師確保計画（案）」では、医師が多い地域からの派遣継続や地域枠卒業医師・自治医科大学卒業医師の優先配置によって医師を確保する方針であるが、それでも依然として不足

●高梁市医療計画では、現時点で医師が不足している状況の中で、２０１５年から２０４０年にかけてさらに約57％医師が減少すると推計

医師数の将来予測（高梁市医療計画）



⇒市では、市内での勤務期間に応じて返還を免除する**「医学生奨学金制度」**（上限月額20万円）を平成27年度から実施し、現在４人の医学生に貸与しています。

今後の取り組み

医師不足を解消するため、関係機関への働きかけを行いながら、医療関係者との議論を深め、市民の皆さんが安心して医療を受けることができるように対策を講じていきたいと考えています。また、親族や知り合いで地域に密着した医療に携わりたいという医師がおられましたら、ぜひご紹介ください。

市ホームページ「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

問医療連携課☎(21)0304

（２月号）

在宅実習を通して感じたこと



織田（おりた）茉奈（まな）さん（吉備国際大学看護学科４年）

在宅実習で療養者の自宅を訪問しました。最初は意思疎通を図ることが難しかったですが、訪問を重ねるにつれて療養者にとっての最適なコミュニケーション方法を見つけ出し、本人の思いを汲み取るなかで現在の疾患と既往歴を関連付けることもできました。また、看護師は専門的な知識や技術を身に付けることと同様に患者さんに寄り添うことで、徐々に信頼関係を築くことができると感じました。

同じ疾患でも、療養者の生活背景などの違いによってそれぞれニーズは異なります。そのニーズを把握するために、普段のコミュニケーションから必要な情報を収集することは、患者さんに一番近い存在である看護師の重要な役割だと考えました。そのためには、自宅に訪問して生活のなかで困ることはないかを確認することも大切だと思います。実際に本人に生活動作をしてもらい、本人と家族が生活する上で何が良い方法（住宅改修、福祉用具のレンタルなど）なのかを、医療・福祉・建築などの専門職がチームとなって考えることで、退院後の安心した生活につながっているのだと感じました。



実習の様子

退院後の生活を考えることは、看護師として大切なことだと思います。在宅実習の経験を生かして、看護師として頑張っていきたいと思います。

問医療連携課☎(21)0304

（３月号）

市内の看護師確保について

1　幼い頃から郷土愛を育み、地域医療への関心を高める取組み

①「たかはし広がる子どもの夢事業」で医療現場体験
　⇒令和元年8月8日に吉備国際大学で開催
②方谷学「高梁を知る」で、高梁市の医療についての授業を実施
　⇒令和元年10月24日、11月28日に高梁高校で実施
③企業見学ツアー
　⇒平成31年3月27日に高梁中央病院、なごみの森を訪問
④医療介護出前講座の周知
　⇒令和元年11月の校園長会、令和2年7月の校園長会で出前講座の周知

2　市内で働く看護師の養成に向けた取組み

①高梁市看護師等養成奨学金（平成２２年度～）
　⇒普及啓発の強化、返還猶予の緩和
②市内病院、医師会、市が一体となり県内の看護師養成学校を訪問
　⇒平成３０年度から県北５校、県南６校を訪問
③市内４病院を巡る見学ツアーの開催
　⇒平成30年8月17日開催（6名参加）、令和元年8月13日開催（7名参加）
④看護の魅力ガイダンスの開催
　⇒平成30年11月6日、令和元年7月1日に吉備国際大学、順正高等看護福祉専門学校の生徒を対象に実施
⑤市内病院での研修機会の拡大
　⇒令和元年度から順正高等看護福祉専門学校の実習に高梁中央病院、大杉病院を追加

3　市内で働く看護師のスキルアップに向けた取組み

①高梁かんごねっと（事務局：高梁医師会）における研修の充実
　⇒リーダー育成研修を市内4病院を会場に年4回開催、認知症研修、皮膚・排泄ケア研修などの専門研修を年10回以上開催

看護師採用状況調査結果について

○採用者数

平成２９年度：２６名 → 平成３０年度：３０名 → 令和元年度：４２名

採用者数は、平成２９年度から平成３０年度にかけて４名増え、さらに平成３０年度から令和元年度にかけて１２名増加。

○採用・退職状況

平成３０年度退職者数 ３０名 ＜＜ 令和元年度採用者数 ４２名

平成３０年度の退職者数は３０名で、令和元年度の採用者数は４２名。

		平成29年度新規就業者数		平成29年度退職者数		平成30年度新規就業者数		平成30年度退職者数		令和元年度新規就業者数		令和元年度退職者数		令和2年度新規就業者数		備　考（新卒者がいる場合、年度別に学校名を記入ください。）
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
看護師	２０代	4	1	2	0	6	2	3	0	9	3	4	2	2	0	H29年度 真庭高校２名
	３０代	5	1	5	1	6	0	3	1	8	4	4	2	1	1	H30年度 吉備国際大学１名 順正高等看護福祉専門学校１名 倉敷翠松高校１名
	４０代	6	2	1	0	8	1	6	1	5	0	4	0	0	1	
	５０代	4	0	5	0	4	0	3	0	10	0	5	0	2	0	R元年度 吉備国際大学１名 順正高等看護福祉専門学校４名 倉敷翠松高校１名
	６０代	1	1	8	3	3	0	7	6	1	2	6	0	0	0	
	７０代～	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		20	6	21	7	27(3)	3	22	8	33	9	23	4	5	2	

※市内４病院の合計値
※合計値のカッコ内の数字は市奨学金貸与者

高梁市看護師等奨学金貸付状況について

	新規貸付者	当該年度就職者	うち市内就職者	貸付辞退者数
H22年度	2			
H23年度	2			
H24年度	6			
H25年度	5	2	1	
H26年度	5	2	2	2
H27年度	1	8	5	1
H28年度	1	5	3	
H29年度	3			2
H30年度	5	2	2	
R元年度	5	1	1	
R２年度	1	1	1	
	36	21	15	5

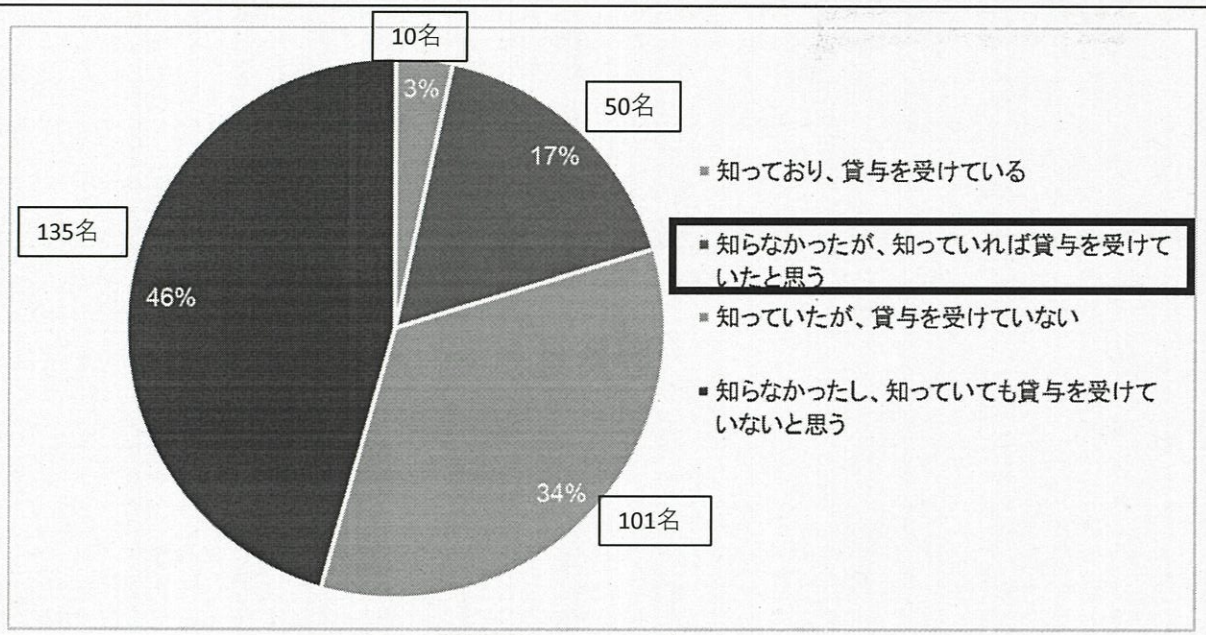
貸付修了者２６名のうち、１５名（約５８％）が市内で就職しています。

貸付者３６名の所属学校：順正高等看護福祉専門学校　２０名
吉備国際大学　７名
その他　９名

令和元年度返還猶予の条件を緩和しました！
学校卒業後市外の医療機関に就職しても５年以内に市内医療機関等へ就職する意思がある場合も返還猶予としています。

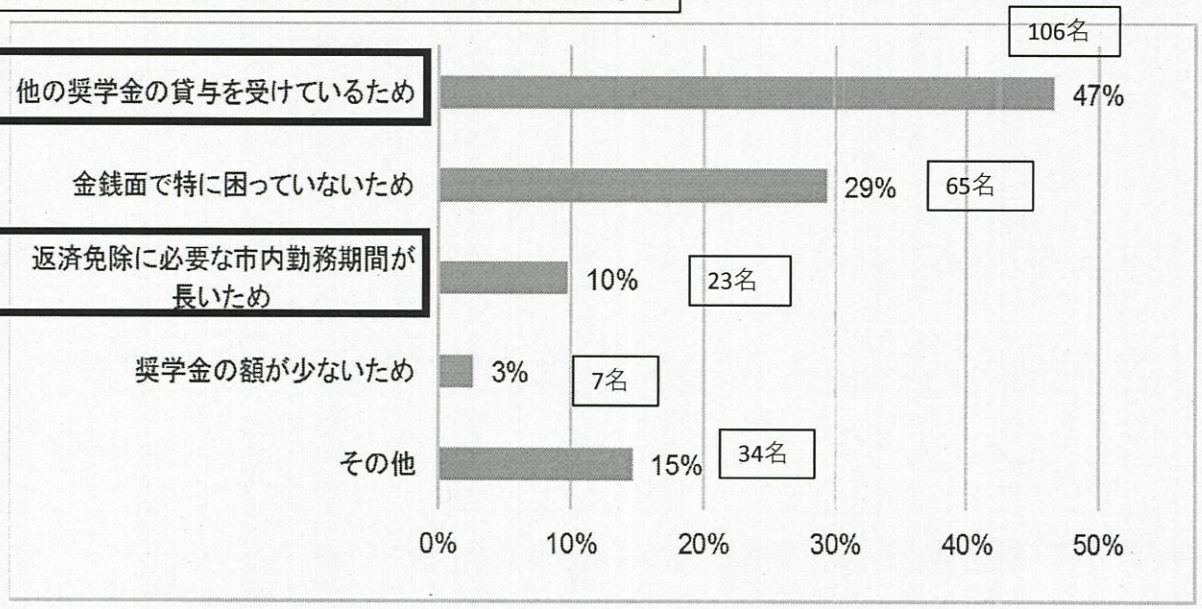
高梁市看護師等奨学金制度について

1　吉備国際大学、順正高等看護福祉専門学校看護学科の学生の奨学金認知度



平成３０年度から吉備国際大学、順正高等看護専門学校の合格通知の送付、オープンキャンパス、入学時オリエンテーションの際に市奨学金チラシを配布し、普及啓発に努めている。
令和２年度は、大学へ訪問し、１年～３年生を対象に直接説明を実施。

2　奨学金の貸与を希望しない理由



日本学生支援機構では高校３年生の夏ごろ、他県や各病院の奨学金は大学１年生の後期に申請するケースが多い。時期を見て早め早めのPRが必要。

県内の他市（新見市・美作市）の制度を見ても勤務した期間に応じて免除要件があり今後検討が必要。
奨学金の額について検討が必要。

出所：高梁市医療計画

高梁市看護師等奨学金制度の見直しについて（案）

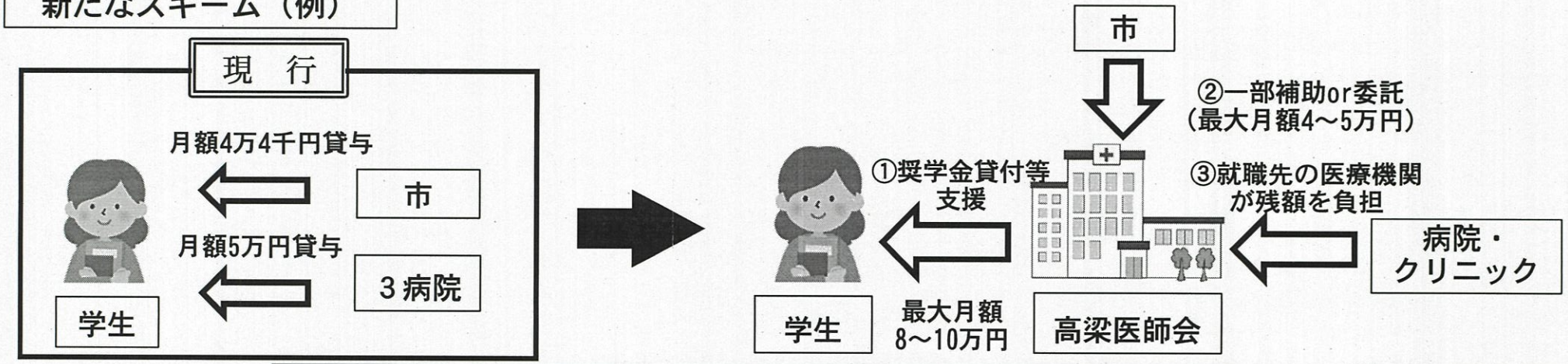
背　景

市内の看護師の不足・高齢化は喫緊の課題である。看護師確保に向けより効果的な事業にするため奨学金制度の見直しが必要。

主な変更点

○月額を4万4千円から8～10万円に変更。　○貸付金額は本人の選択制を導入。（4万、6万、8万円など）
○免除要件に、勤務期間に応じた一部免除の考えを導入。　○事業の主体を（一社）高梁医師会へ移管。

新たなスキーム（例）



○メリット
・医療機関、市の財政負担をこれまでより軽減しつつ、8～10万円という金額を前面に出すことが可能。
・医師会と学生が直接話し合うことで本人の意向に沿った医療機関の紹介が可能。
○デメリット
・医師会の負担増。　・就職先の医療機関からどのタイミングで資金回収を行うか。

岡山県内の看護師確保の取組み
○岡山県　特定地域看護職員確保支援事業費補助金（20万円を限度）
○新見市　看護学生奨学支援金給付（10万円／月）　○美作市　看護師等奨学金貸付（5万円／月）

岡山県内の大学年間授業料（看護学科）

○岡山大学	535,800円	○岡山県立大学	535,800円	○新見公立大学	486,000円
○吉備国際大学	1,146,000円	○川崎医療福祉大学	1,000,000円	○山陽学園大学	800,000円

新型コロナウイルス感染症対策について

○新興感染症対策委員会での協議内容

1　構成委員

吉備国際大学	保健医療福祉学部　理学療法学科　髙橋　淳　教授
高梁医師会	仲田永造、西　厚生、吉田栄一、紙谷晋吾（委員長）、野村良明、池田　洋、那須龍介、生田夏美、和氣洋介、菅田吉昭、徳弘昭博
高梁歯科医師会	小野雅俊
岡山県	備北保健所
高梁市	健康づくり課、介護医療連携課、感染症対策室、防災復興推進課、消防本部警防課
吉備中央町	保健課

これまでに７回（第１回：令和２年３月１９日（木）、第２回：４月２日（木）、第３回：４月１６日（木）、第４回：４月３０日（木）、第５回：５月２１日（木）、第６回：６月２５日（木）、第７回：７月３０日（木））の委員会を開催。

2　岡山県の対応状況

（１）一般電話相談件数　５６，６７５件（８月２４日現在）

本庁　２４，２６４件

保健所・支所　３２，４１１件

帰国者・接触者相談センター相談件数　１３，２７０件（８月２４日現在）

→「新型コロナウイルス受診相談センター」に改称（５月２２日～）

（２）ＰＣＲ検査実施人数　５，８８０人　（８月１８日現在）

（３）医療体制整備状況（７月２７日現在）

① 新型コロナウイルス外来等　医療機関数　１１１機関　受診患者数３，２５８人

② 入院病床の確保　３９医療機関　２５０床（うち重点医療機関６機関７５床）

③ 宿泊療養施設　２０７室（７月２６日～）

④ 人工呼吸器　県内保有数　５１７台

⑤ ＥＣＭＯ　県内保有数　２８台

⑥ アビガン等の使用可能医療機関　２０機関

（４） 感染者の状況

１２８件（延べ数）（８月１９日現在）

内訳　入院中　１６件　医療機関以外で療養中　２件　退院・退所　１１０件

３　高梁市内の状況

（１）一般電話相談件数（備北保健所）　４８８件（８月２５日現在）

新型コロナウイルス受診相談センター相談件数（備北保健所）７９件（８月２５日現在）

（２）医療体制

① 帰国者・接触者外来　　医療機関数　２機関（医療機関名は非公表）

→「新型コロナ外来」に改称（５月２２日～）

※まずは、ウイルスを院内に持ち込まないという方針を継続し、電話してからの受診の徹底を周知する。

② 入院病床の確保　１２床

（３）感染者の状況　２人（８月１９日現在）※ＰＣＲ検査実施人数は非公表

（４）医療機関等へのマスク等の配布（寄附含む）

高梁医師会	マスク９，０００枚、消毒液８４ℓ	（令和２年４月　２日）
高梁歯科医師会	マスク１，０００枚、消毒液１６ℓ	（令和２年４月　２日）
高梁医師会	マスク９，０００枚	（令和２年５月２０日）
高梁医師会	高梁紅茶１００パック	（令和２年５月２０日）
高梁医師会	消毒液７２ℓ（高濃度）	（令和２年６月　１日）
高梁医師会	マスク３，０００枚、防護服３００着、フェイスシールド１００枚	（令和２年６月　３日）
高梁医師会	フェイスシールド２００枚	（令和２年６月２３日）
高梁医師会	ＫＮ９５マスク５６０枚	（令和２年６月２３日）
高梁歯科医師会	マスク１，０００枚	（令和２年６月２３日）
高梁歯科医師会	ＫＮ９５マスク２００枚	（令和２年６月２３日）
高梁薬剤師会	ＫＮ９５マスク４０枚	（令和２年６月２３日）
高梁医師会	医療用手袋６，４００枚	（令和２年８月２０日）

（５） その他

（４月２日）

新型コロナウイルス感染症患者のピーク時の市内医療需要の算出

① ピーク時１日当たりCOVID-19を疑って外来を受診する患者数予想　１１０．３９人

② ピーク時１日当たりCOVID-19で入院治療が必要な患者数予想　７１．９人

③ ピーク時１日当たりCOVID-19で重症者として治療が必要な患者数予想　２．３７人

→限られた医療資源の中で市内での医療崩壊を招かない対策が必要。

（４月３０日）

・市では感染症対策室を５月１日に設置。

・新型コロナウイルス感染症の重傷者は市内では受け入れにくい。
（人工呼吸器、人材（看護師）不足、技術の問題）

・医療資材が慢性的に不足。（Ｎ９５マスク、フェイスシールド、防護服等）

（５月２１日）

・緊急事態宣言が解除され、各病院の患者、家族の来院時の感染チェック体制について一定程度病院間で足並みを揃える必要がある。

・市として、感染症対策を考慮しながらの災害時の避難について、近くに安全に避難可能な場所があれば自主的避難を推進する分散避難の考えを取り入れる。高梁医師会としては、各避難所を担当する医師会員の地域ごとの振り分けも必要となるが、実際にどの程度の医師会員が行動できるか把握する必要がある。

（６月２５日）

・東京での感染者が多くある中で県域を超えた移動が増えている。世界的にも新規感染者がアメリカでは１日５万人以上、ブラジルでは３万人以上と油断できない状況。

・県内のＰＣＲ検査数は１日１０件以下で推移。市内では月に数件程度。

・市では感染症対策避難所マニュアルを作成。

（７月３０日）

・７月２３日に高梁市内で２名のコロナウイルス感染者が出て、県内でもここ２週間で４０名以上の患者が発生している状況。

・現在の各病院の患者、家族の来院時の感染チェック体制と面会制限については再度面会禁止が厳格化され、玄関での検温チェック、マスク確認、手指消毒の徹底を再び実施。

・秋以降のインフルエンザ流行を考慮し、発熱外来の見直しの検討が必要。

4　専門家からの情報提供（吉備国際大学保健医療福祉学部理学療法学科　髙橋　淳　教授）

（４月２日委員会）

・現在、流行しているのは、中国で流行しているものではなく、性質が変異したもの。

・症状としては、のどの痛み、倦怠感、咳、呼吸困難。

・軽症でもいきなり重症になる。ウイルスを増やさないよう早めに休養を。

・呼吸困難または低酸素血症がなければ入院治療は必要ない。（重症であるほど熱は出ない。）

・新たな性質の変異が無い限り、感染者が増え始めても３週間すれば過ぎ去る。

・全ての人が感染を回避するよう努力が必要。

（４月１６日委員会）

・インフルエンザ流行と何らかの干渉性がある。

・各県のコロナのタイプが違う。世界のどの地域を経由したかでコロナの重症度が違う。

（４月３０日委員会）

・濃厚接触者の定義が少し変わり、発症２日前より、１ｍ～２ｍで１５分以上の接触となった。

・患者数が減少傾向にあり、収束に向かっている可能性がある。

予　防　策

・外来患者の全員がマスクを着用する必要がある。

・換気の徹底。換気をすることでリスクは下がる。

・定期的な消毒。（ドアのノブ、テーブル、家具）

・濃厚接触を避ける。

・感染予防策をパンフレット、テレビ、ラジオ等で情報発信する。

・相談・受診の目安、予防策について、高梁医師会からのお知らせとして、広報たかはし５月号へ掲載する。

高梁市「新型コロナウイルス感染症に係る緊急経済対策等」 【一般会計 3月補正、5月補正、6月補正、7月補正、9月補正】

緊急経済対策等予算規模：３８.1億円

【0.2億円（3月補正）＋３１億円（５月補正）＋0.6億円（５月補正・専決）＋2.7億円（６月補正）＋1.6億円（６月補正・追加）＋0.3億円（７月補正・専決）＋1.7億円（９月補正)】

1 中小企業向け支援 395,836千円	1	高梁巡り旅行商品造成･販売助成事業	２，０００千円	･市内旅行業者による市内発着の旅行ツアーの造成などに対する支援 ＜1旅行あたり10万円 宿泊が伴う場合には20万円＞	6月補正
	2	中小企業等事業継続支援事業	１７７，１２０千円	･新型コロナウイルス感染症に起因する影響（前年度比20%売り上げが減少）をうけた中小企業等に対する支援 ＜中小企業20万円 小規模事業者10万円＞	6月補正
	3	雇用安定助成事業	１０，０００千円	･事業活動の縮小を余儀なくされた事業主が、休業手当を支給する場合に国の給付額に対する上乗せ支援 ＜国の支給額に3%の上乗せ支給＞	6月補正(5,000千円) 9月補正(5,000千円)
	4	企業支援専門家派遣事業	５，０００千円	･高梁商工会議所、備北商工会が開催する相談会等への専門家派遣費用の支援	6月補正
	5	高梁市事業者応援事業 「地域活性化×梁（かけはし）商品券」	１５５，０００千円	･市内事業者の支援と市内消費の拡大を図るための市内店舗で使用できる商品券の配布 ＜市民一人当たり5，000円の商品券配布＞	6月補正･追加
	6	学校給食地場産品活用事業	２，６２５千円	･市内の学校施設等（幼稚園、こども園、保育園含む）に地場産品を給食として提供 ＜学校給食2031食、児童施設660食＞	9月補正
	7	日本遺産推進事業	１９，０９１千円	･「ジャパンレッド」発祥の地として日本遺産の認定を受けた吹屋地域の魅力向上と活力創出のための取組支援	9月補正
	8	住宅リフォーム補助事業 「新しい生活様式支援」	２５，０００千円	･「新しい生活様式」を取り組みやすくする居住環境の向上、地域経済の活性化、地元企業の雇用維持のための住宅リフォーム補助 ＜20万円以上の工事に対し補助率10%（上限額30万円）＞	9月補正
2 市民生活向け支援 3,124,074千円	1	障害者日中一時支援事業	２７８千円	･地域活動支援センター内や障害者日中一時支援での感染拡大防止対策 ＜消毒液の購入＞	6月補正
	2	高齢者等在宅生活支援事業	４，４００千円	･外出自粛による生活不活性化を防ぐための生活習慣の啓発 ＜生活習慣病予防、フレイル予防のための健康動画の放送＞	6月補正
	3	ようこそ赤ちゃん応援給付事業	１４，０２７千円	･出産に伴う不安や経済的な問題などに対処するための新生児を対象とした給付支援 ＜新生児1人につき10万円、衛生資機材の配布＞	6月補正
	4	ひとり親家庭臨時特別給付事業	５，４４２千円	･ひとり親家庭に対する給付支援 ＜児童扶養手当受給者1人当たり3万円＞	6月補正
	5	障害児通所等給付事業	８２７千円	･臨時休校によるデイサービス利用の増加に対する障害者通所給付費支援	6月補正

3 感染拡大の防止

213,164千円

6	特別定額給付支給事業	3,002,310千円	・緊急的な家計の支援 ＜1人あたり10万円＞	5月補正
7	住居確保給付事業	2，970千円	・離職などにより経済的に困窮し住宅を喪失等した者に対する家賃相当額の支援 ＜単身世帯：3万1千円、2人世帯：3万7千円、3人世帯：4万円＞	5月補正
8	子育て世帯臨時特別給付事業	31，279千円	・子育て世帯の生活を支援するための児童手当を受給する世帯に一時金を支給 ＜児童1人当たり1万円＞	5月補正
9	放課後児童健全育成事業 （長期休校による学童保育開所）	5，000千円	・市内小学校の長期休校対応による開所措置	3月補正・追加
10	外出支援食事券事業 「家族でほっこり！応援事業」	12，405千円	・子供たちの外出機会の創出と市内消費の喚起を図るための食事券配布 ＜市民一人あたり（18歳未満）3，000円の食事券配布＞	3月補正・追加
11	ひとり親世帯臨時特別給付金支給事業	30，136千円	・ひとり親世帯等の子育て負担の増加や収入の減少に対する支援のため、臨時特別給付金を支給 ＜1世帯5万円、第2子以降1人につき3万円＞ ＜（家計が急変し収入が減少している世帯は1世帯5万円）＞	7月補正・専決
12	有害鳥獣被害防止事業	15，000千円	・地域住民が新型コロナウイルス感染症等の感染拡大防止対策のステージを十分踏まえながら実施する、必要な防護捕獲活動や設備に対する補助	9月補正
1	遠隔会議システム整備事業	632千円	・外部との遠隔会議を実施するための整備 ＜マイク、ヘッドホンセット、スピーカーなど＞	6月補正
2	避難所感染症対策事業	45，584千円	・指定避難所や福祉避難所における感染症等の感染防止のための防災資機材の整備 ＜間仕切り、非常用バッテリー、大型扇風機など＞	5月補正（1,135千円） 6月補正（3,875千円） 9月補正（40,574千円）
3	公共施設等感染予防事業	3，736千円	・庁舎等公共施設での感染症等の防止のための資機材の整備 ＜サーモグラフィーカメラ、サーマルカメラ＞	6月補正
4	保育施設等感染防止事業	33，574千円	・保育施設内での感染症等の感染防止のための資機材の整備 ＜マスク、消毒液など＞	3月補正・追加（1,000千円） 5月補正（402千円） 6月補正（16,150千円） 9月補正（16,022千円）
5	学校保健特別対策事業	31，548千円	・学校施設内での感染症等の感染防止のための資機材の整備 ＜マスク、消毒液など＞	5月補正（330千円） 6月補正（5,195千円） 9月補正（26,023千円）
6	感染症予防事業	36，051千円	・感染防止のための資機材の整備 ＜アルコール消毒、フェイスシールド、パルスオキシメーター、防護服など＞	3月補正・追加（4,621千円） 5月補正（19,918千円） 6月補正（6,042千円） 6月補正・追加（2,500千円） 9月補正（2,970千円）
7	感染症対応病床等準備事業	1，500千円	・新型コロナウイルス感染症等の患者の受入れ準備に対する支援 ＜1床当たり10万円＞	6月補正

8	マスク購入券事業	３８，６１４千円	・市民に対するマスク購入機会の提供を創出するための購入券の発行 ＜1世帯1枚の購入券の発行＞	5月補正
9	店舗内感染拡大防止支援事業	６，０００千円	・感染拡大防止対策に取り組む事業者（飲食店、交通事業者等）に対する支援 ＜補助率1/2　上限10万円＞	6月補正・追加
10	災害時情報発信システム整備事業	５，５０１千円	・災害時等に迅速・正確に情報発信を行うため、メール、ライン等一元的に情報発信するためのシステム等の整備	9月補正
11	移住定住促進事業	２４１千円	・新型コロナウイルス感染症等の感染拡大防止のため、移住相談会等をオンラインで実施するための整備	9月補正
12	予防接種促進事業	１，２３０千円	・新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行を防ぐため、インフルエンザワクチンの予防接種費用の一部を助成 ＜中学1年生から高校3年生まで、1，500円／人助成＞	9月補正
13	サテライトオフィス・シェアオフィス整備事業	５，０００千円	・市内の空き店舗等を活用してサテライトオフィスやシェアオフィス等のテレワーク環境を整備するもの等への補助 ＜補助率1／2　上限1，000千円＞	9月補正
14	救急搬送用医療器具購入事業	３，８１３千円	・救急搬送に係る防護策及び隊員の二次感染防止のための搬送資機材等の購入	9月補正
15	障害者総合支援事業	１４０千円	・障害者施設等における新型コロナウイルス感染症等の感染防止のための資機材の整備	9月補正
1	遠隔学習機能強化事業	１，０７８千円	・オンライン授業等のための設備の整備 ＜マイク、スピーカーなど＞	6月補正
2	GIGAスクール構想事業	７６，６２３千円	・ICTの活用により学習環境を整えるため生徒1人につき1台のパソコンなどの配備 ＜パソコン1，053台、モバイルルーター300台＞	5月補正・専決（60,816千円） 6月補正（15,807千円）
3	GIGAスクールサポーター配置支援事業	４，１７２千円	・ICTの活用により学習環境を整えるためのサポーターの配置 ＜サポーター2名配置＞	6月補正
4	修学旅行キャンセル料 保護者負担軽減事業	４，８４６千円	・小・中学校、市立高校において修学旅行のキャンセル料が発生した場合の保護者への補助	9月補正

4 教育の発展

86,719千円

（令和２年８月１１日制定）

高梁市感染症対応病床等準備事業補助金交付要綱（内規）

（趣旨）

第１条　市長は、新型コロナウイルス感染症への対応として緊急に必要となる医療提供体制の整備について、予算の範囲内において、補助金を交付するものとし、その交付に関しては、高梁市補助金等交付規則（平成１６年高梁市規則第４５号）の規定によるほか、この要綱の定めるところによる。

（補助対象）

第２条　補助金の対象は、市内の医療機関において新型コロナウイルス感染症患者等の受入れ準備として行う病床等の設備の整備に要する費用とする。

（補助金の額）

第３条　補助金の額は、次により算出された額とする。ただし、算出された額に１，０００円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。

２　次の表の左欄に定める対象経費の実支出額の総額から当該事業に係る寄附金その他収入額を控除した額と右欄の基準額とを比較して少ない方の額を交付する。

対象経費	基準額
新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関の病床等の整備をするために必要な経費（単価３０万円以上の備品購入費を除く。）	１床当たりの上限額１０万円×市長が認めた病床数

（交付申請）

第４条　補助金の交付の申請は、高梁市感染症対応病床等準備事業補助金交付申請書（様式第１号）に関係書類を添えて、別に定める日までに市長に提出して行うものとする。

（交付の条件）

第５条　補助金の交付の決定に当たっては、次の条件を付するものとする。

(1)　事業実施計画を変更する場合（軽微な変更を除く。）は、市長の承認を受けなければならない。

(2)　事業実施計画を中止し、又は廃止する場合には、市長の承認を受けなければならない。

(3)　事業実施計画が予定の期間内に完了しない場合又は当該計画の遂行が困難となった場合には、速やかに知事に報告してその指示を受けなければならない。

(4)　事業実施計画の実施により取得し、又は効用の増加した財産については、事業完了後においても善良な管理者の注意をもって管理するとともに、その効率的な運営を図らなければならない。

(5)　補助事業完了後に、消費税及び地方消費税の申告により補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が確定した場合（仕入控除税額が０円の場合を含む。）には、消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書（様式第２号）に関係書類を添えて、速やかに市長に報告しなければならない。

なお、補助金に係る仕入控除税額があることが確定した場合には、当該仕入控除税額を市に返還しなければならない。

(6)　補助事業に係る収入及び支出を明らかにした帳簿を備え、当該収入及び支出について証拠書類を整理し、当該帳簿及び証拠書類を補助金の額の確定の日（事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日）の属する年度の終了後５年間保管しておかなければならない。

（変更申請手続）

第６条　補助金の交付決定後の事情の変更により申請の内容を変更して交付申請等を行う場合には、第４条に定める申請手続に従い、別に定める日までに行うものとする。

（実績報告）

第７条　補助金の事業実績報告は、当該年度の事業が完了したとき（事業の中止又は廃止の承認を受けた場合を含む。）は、高梁市感染症対応病床等準備事業補助金に係る事業実績報告書（様式第３号）に関係書類を添えて、補助事業の完了の日から起算して１４日を経過した日又は当該年度の末日のいずれか早い日までに市長に提出して行わなければならない。

（補助金の支払）

第８条　市長は、補助金の額の確定後補助金を支払うものとする。ただし、必要があると認める場合においては、予算の範囲内において概算払をすることができる。

（補助金の返還）

第９条　市長は、交付すべき補助金の額を確定した場合において、既にその額を超える補助金等が交付されているときは、期限を定めて、その超える部分について返還することを命ずる。

（補則）

第１０条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附　則

この要綱は、令和２年８月１１日から施行し、令和２年度分の補助金から適用する。



ウィズコロナの日本における保険医療オンライン化に向けた検討

ディスカッションペーパー

COVID-19流行に伴い、オンライン診療に対する基準が一時的に緩和。アフターコロナの時代においても、初診を含むオンライン診療ニーズは、一層高まると予想。

我が国におけるオンライン診療（遠隔診療の歴史）

1997
- オンライン診療に関して、厚生省から初の通知。
- なお、あくまで直接の対面診療を補完するものであり、初診は対面に限る。

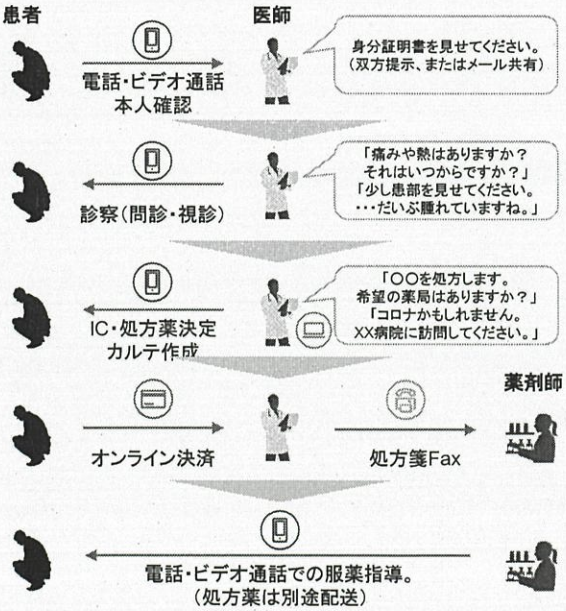
2008
- 総務省・厚生労働省の懇談会にて、生活習慣病等をオンライン診療の対象とし、専用の診療報酬を設けることを提言。（しかし、創設は2018）

2015
- 厚生労働省医政局事務連絡にて、オンライン診療が離島・へき地以外であることを確認。

2018
- 診療報酬改定で、オンライン診療料を創設。しかし対象はやや限定的。（特定疾患療養管理料を算定している初診以外の患者、等。）また、対面の初診料ほどの報酬はなかった。

2020/4/10
- COVID-19の流行を受け、一時的に初診からのオンライン診療も可能に。麻薬・精神・ハイリスク薬（抗がん剤など）は取り扱えないものの、2018年における限定が一定解除され、隆盛を見せる。

一般的なオンライン診療ステップ



オンラインでは基本的に、患者と医療従事者との接点は一切ない。
アフターコロナの「新しい生活様式*」にも馴染むものと期待。

*2020/5/4 厚生労働省 発表"新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」"

© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

DRAFT

海外ではオンラインソリューションの開発が進み、すでに多くのユーザーを獲得。国内でも既存ベンダーに加え、膨大なユーザーを持つIT企業の参入が相次ぐ。

ソリューション例

国内

	ベンダー	ソリューション	概要
既存の主要ベンダー	MRT OPTIM	Pocket Doctor	• 標準的なオンライン診療機能を搭載 • デバイス上でも赤チェックを付けられるなどの機能があり、特許を取得 • やや後発。電カル連携なし。
	MICIN	curon	• 標準的なオンライン診療機能を搭載 • AI診断や薬局向け機能などを具備 • 導入医療機関数1位（2020/4） • H30 総務省実証事業参画。
	MEDLEY	CLINICS	• 標準的なオンライン診療機能を搭載 • 元々医師検索サイトを運営していたため初期には急拡大したが、医療機関の負担額が大きく、やや後塵。
	Integrity Healthcare	YaDoc	• 標準的なオンライン診療機能を搭載 • かかりつけ患者の管理機能が充実 • 導入医療機関数2位（2020/4） • H30 総務省実証事業参画。
参入ベンダー	LINE ヘルスケア		• LINEとエムスリーが出資し創業。 • LINEのユーザー網・決済機能、エムスリーの医療ネットワークを活用し、既に相談サービスをリリース。
	HT HEALTHCARE TECHNOLOGIES		• ソフトバンクと、平安（中国）が出資し創業。ソフトバンクの通信・ユーザー網と、平安の「ピンアングッドドクター」のソリューション知見を活用。

海外

	概要
英国	babylon • イギリス バビロンヘルスが提供する、オンライン診断アプリ。国内25万人・全世界で既に400万人以上が活用。 • ユーザーがAIチャットボットに症状を伝えると、症状を即座に分析し、AIが、適切な医療診断を行う。 • 診断結果によっては、在宅勤務の医師とのビデオ面談の推奨、医療機関での診療予約までを実施可能。
インド	DocsApp • AI問診での診療に加え、医者と患者をマッチングさせるオンライン医療診断サービス。 • 患者は病院に行くことなく、僅か30分程度で問診から薬の処方まで全てを完了。 • AI問診で、およそ60-70%の診察精度を担保。今後さらなる精度の向上を目指す。 • 配送業者との連携拡大も進めており、都市部では既にECの様に薬を受け取ることが可能。
中国	微医 WeDoctor • テンセントが出資支援している、微医（We Doctor）のソリューション。オンライン予約・診療・処方だけでなく、保険サービスも拡充。 • 人口に対する医師不足が顕著で、オンライン診療の導入が進む中国で拡大が進み、2017年11月時点で、国内30省で2,700件の病院、22万人の医師とつながっており、1億5,000万を超えるユーザが We Doctor の予約・診断サービスを利用。

© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

DRAFT

医師偏在・人手不足の中で、オンライン診療は保険医療の維持に一定効果があると理解している。他方、展開に向けては課題もあり、早期の対応が望まれる。

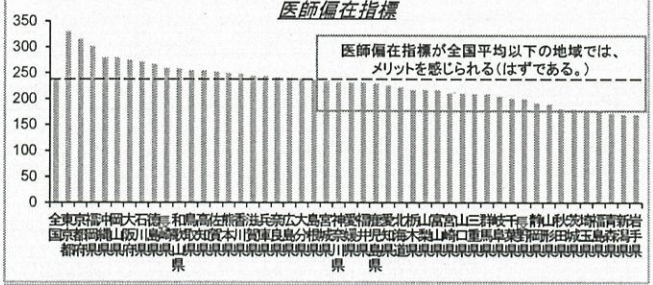
オンライン診療のメリットと検討課題

メリット

医師偏在解消・医療アクセス性の解消

→ 医師もしくは医療従事者が少ないエリアでは、医療サービスの均質な提供に懸念。オンラインでの医療サービス提供が行われることで、例えば「所在地に関係ない、外来初診の診療サービス提供」が可能になる。

医師偏在指標



病院建設のための、莫大な投資の抑制

→ 病院の建替えには、数十億単位での投資が必要となり、各病院・クリニック、時には行政が、大きな負債を抱えることとなる。しかし、人口減少も進む中で、継続的な収益の向上・確保は難しく、そうした負債を抱えることに病院側は消極的である。

→ オンライン診療によって、一部の医師はハード（病院など）を持たずに医療サービスを提供でき、金銭的な理由での閉業を抑制できる可能性がある。

展開に向けた検討課題

対応のアイデア
中でも、行政が支援すべきもの

医師・患者共に高齢化が進んでいる地域では、ICTリテラシーが低く、デジタルデバイスを活用したオンライン診療が導入され辛い。

- ユーザーが使用に抵抗感を感じない、ユーザーフレンドリーなオンライン診療ソリューションの開発、導入試験
- 高齢ユーザーが「本当に使えていないのか」の調査と検証

アクセス性が高まり、診療依頼が殺到。医療崩壊の引金になる。

- 予約枠を設定し、診療可能上限数を管理
- 薬剤師・保健師・看護師等との役割分担見直し
- より早期に医療を提供できるシステムの開発（ex:専門診療科を限定し、早期卒業。施設不要・オンラインのみの開業）

高齢者の"巣ごもり"が促進されることによる、運動不足が引き起こす、体調悪化。

- 患者または未病者の体調管理アプリを活用した、オンラインかつ家庭内でのエクササイズサービス

処方薬の受け取りリードタイムが掛かる。例えば、処置の迅速性が求められる対症療法など。

- 薬局にてオンライン診療を受け、医薬品を受け取る、といったあらたなビジネススキームの創出

オンライン診療の実行により、対面診療よりも収益が低下する。

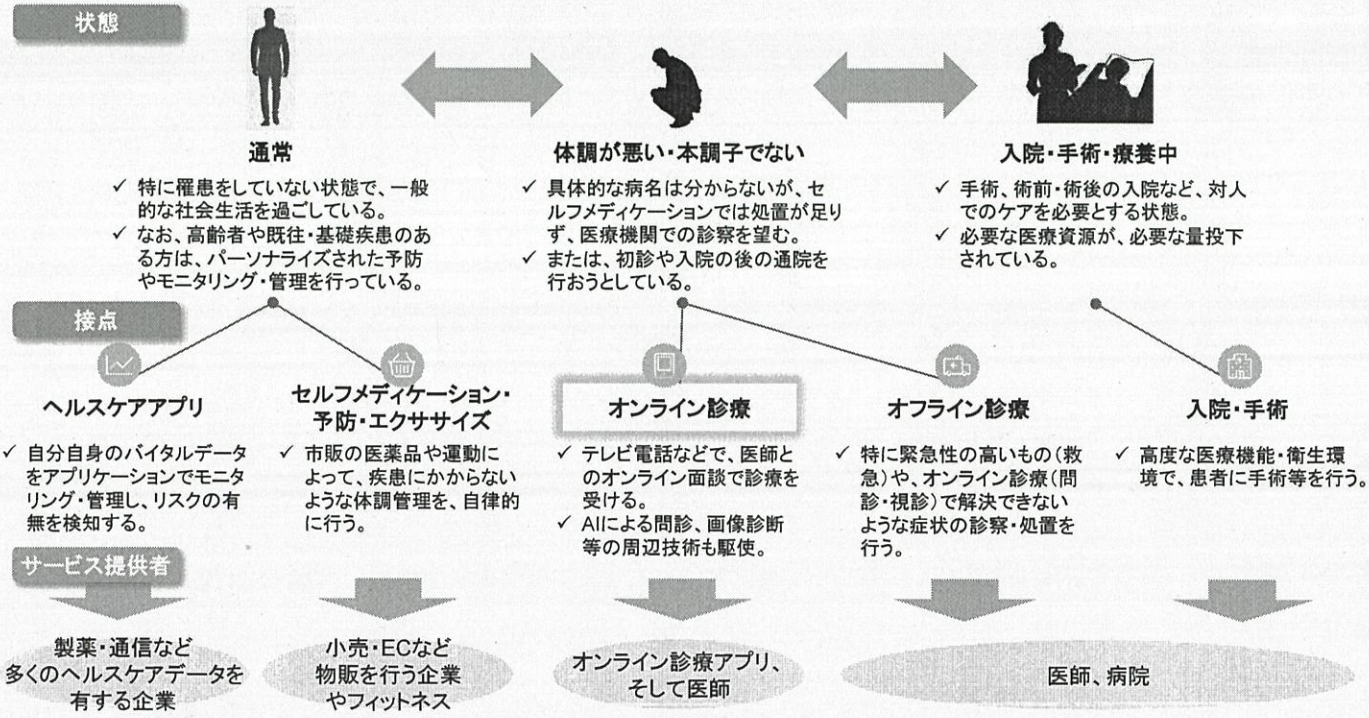
- オンライン診療報酬の底上げや、対症疾患の拡大

© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

DRAFT

近い将来、患者・未病者の身体データはアプリケーションで管理され、外来の基本はオンラインで半自動化。一部の患者のみがリアル施設で診療を受けることとなる。

オンライン診療をベースにした、医療の在り方

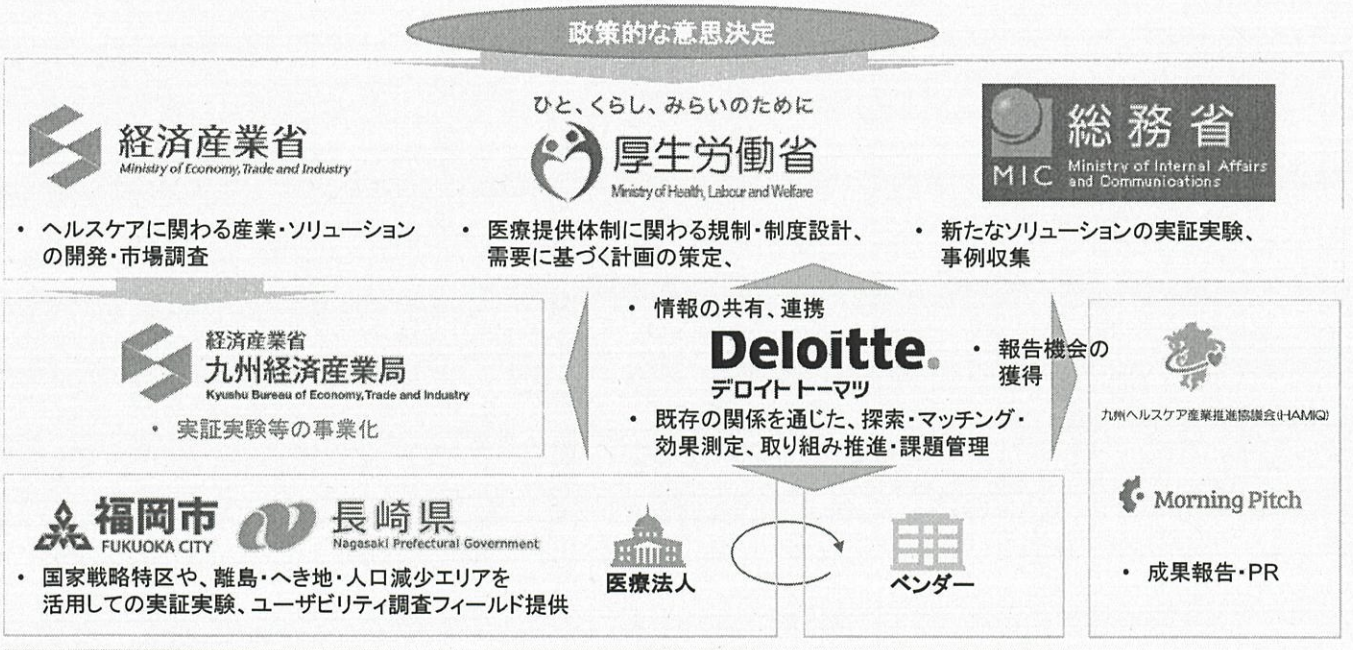


© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

DRAFT

新型肺炎に伴う生活様式見直しの波に乗り、オンライン診療は一時的に注目を浴びている。他方、定着化には、今こそ省庁横断・中央⇒地域に落し込む取組が必要。

取組イメージ



■ デロイトトーマツグループでは、行政・自治体のみならず、実証実験の場となる医療機関・施設とのリレーションや、スタートアップを含むデジタルヘルスのソリューションベンダーとのネットワークを有している。それを生かして上記のような取り組みを実施できないか。

© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

Deloitte.
デロイト トーマツ

高梁市様



移動診療車に関するディスカッションペーパー

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
2020年8月11日

高梁市医療計画で指摘されている医療アクセスの格差の解消に向けて、遠隔診療技術を用いた試験事業を提案する

高梁市医療計画（抜粋）

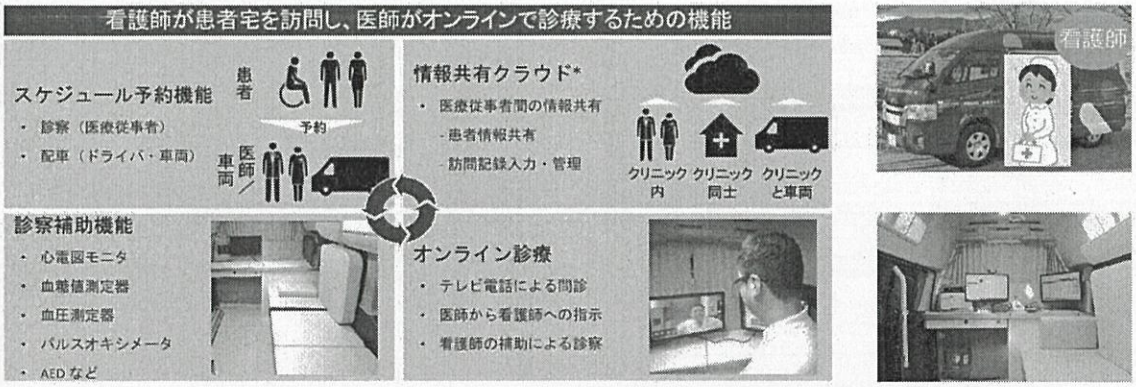
高梁市医療計画の基本姿勢	（基本方針1） ➢ 住民の医療需要が変化しても、適切な医療が受けられること
目指す姿	（基本方針1） ➢ 中山間部、市街地といった居住地域による医療アクセスの格差が可能な限り極小化され、適切な医療にアクセスできることを目指します
現状・課題	（①） ➢ 市内医療機関へのアクセスが不十分
施策	（1-2-2） ➢ 遠隔診療等の先進的テーマや新たなサービスモデルについて必要性を見極めてテーマを選定し、技術調査や参考事例調査を実施した上で、投資対効果が見込まれる事業について検討します • 主な観点：導入に向けた取り組み • 検討事項：試験事業の検討

医療アクセスの格差を極小化するために、遠隔診療技術を用いた試験事業を提案

© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

移動式の診療車による遠隔診療の試験事業を実施し、医療アクセスの改善を狙う

試験事業_移動診療車による遠隔診療

概要	移動式の診療車を活用した遠隔診療。 患者が予約した遠隔診療の予約時間に合わせて、看護師が遠隔診療用車両で往診に向かう。 現地に到着後、患者が車両に乗り込み、医療機関で待機している医師がテレビ電話で遠隔診療を行う。 看護師は現地で医師の指示に従って診療の補助を行う。
イメージ図	
利用イメージ	医療アクセスが困難な中山間部へ移動診療車で往診。通院が困難な患者へ医療サービスを提供する。

参考：医療MaaS「医師の乗らない移動診療車」が挑む地域医療問題｜長野県伊那市実証事業 現地取材
https://www.softbank.jp/biz/future_stride/entry/technology/20200310/

© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

2020年度中に方針検討、計画策定、計画実行まで行い、2021年度中に効果検証、本格運用するアプローチが考えられる

検討アプローチ（案）

2020年度については地方創生臨時交付金が活用可能

	2020年度			2021年度
	①方針検討、交付金申請	②計画策定	③計画実行	④効果検証、本格運用
実施事項	• 対応方針検討（本件実施要否検討） • 概算コストの算出 • 地方創生臨時交付金申請	• サービス概要、体制の検討 ➢ 対象エリア、モデルとなる患者像 ➢ 提供する医療サービス ➢ 参画する医療機関 ➢ 担い手の確保、研修 ➢ 診療頻度、回数　等 • 移動診療車の設計 ➢ 搭載する設備や遠隔医療等に使用する技術の決定 • コストの精緻化 • 法律等のハードルを確認 • 検証方法の検討 ➢ KPIの設定方法 ➢ KPIの取得方法　等	• ②で定めた計画の実行	• 検証用データの取得 • 効果検証 • 本格運用

© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

妥当性のあるコストでオンライン診療に係る準備が可能な想定

移動診療車の概算コスト（イメージ）

（単位：万円）

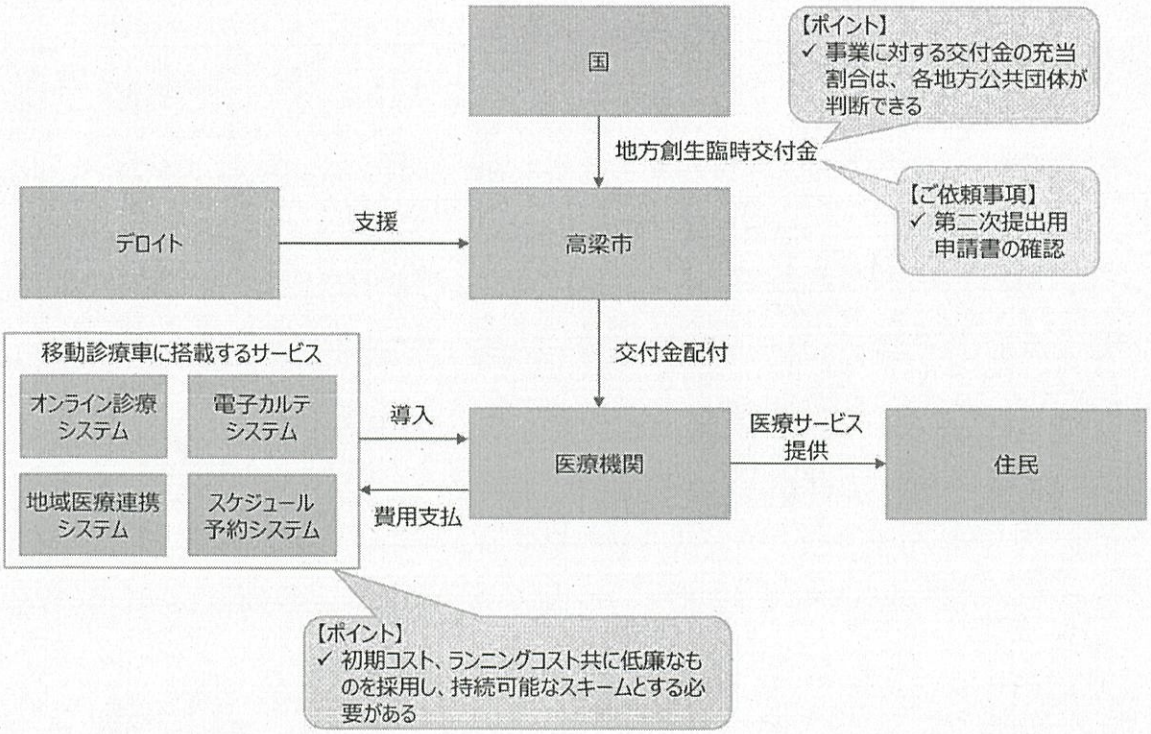
	初期コスト	ランニングコスト（年間）
総額	XXX	XXX
車両本体	車両価格：300 架装料金：XX	3 ：XXX
各種機器		XXX
心電図モニタ		XXX
血糖値測定器	20	XXX
血圧測定器	1	XXX
パルスオキシメータ	10	XXX
AED	30	XXX
PC	20	XXX
システム	XXX	XXX
ステム（「CLINICSオンライン診療」）	XXX	45
カルテ（「CLINICSカルテ」）	XXX	60
医療情報共有システム（「やまぼうし」との連携）	XXX	XXX
スケジュール予約システム	XXX	XXX

illustrative

© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

地方創生臨時交付金を活用し、初期コストにかかる資金を確保する

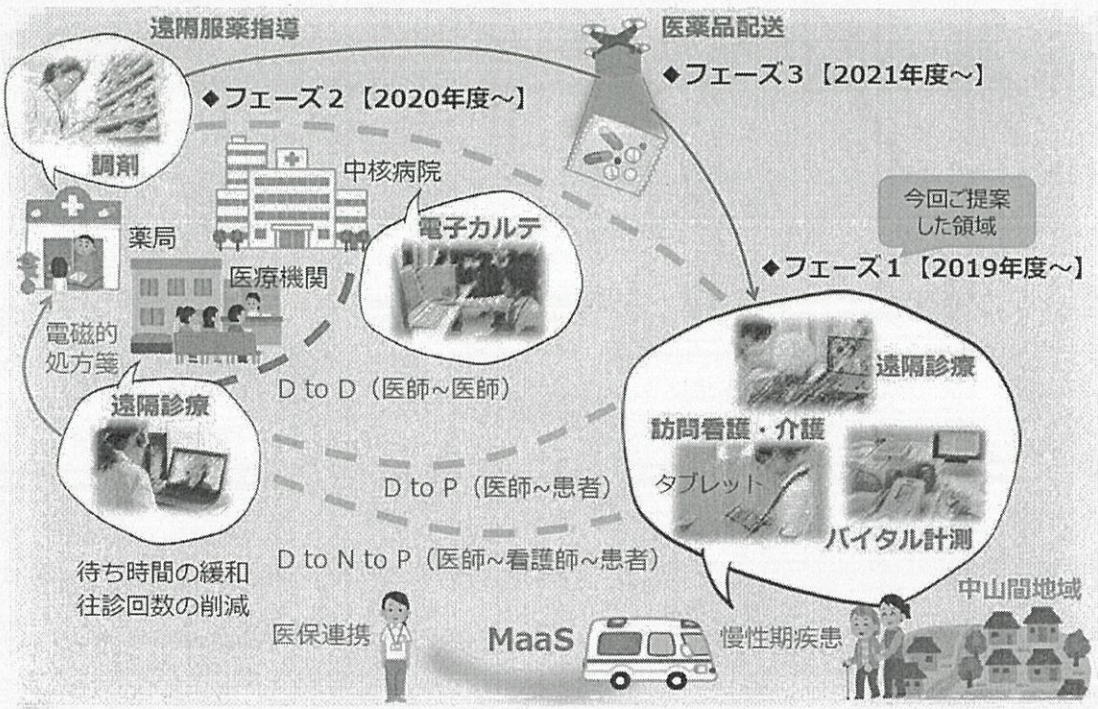
スキーム



© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

長野県伊那市では、移動診療、遠隔診療や遠隔服薬指導、医薬品配送を組み合わせることで医療へのアクセス改善に向けた実証事業を推進している

【ご参考】参考事例_長野県伊那市の取組



© 2020. For information, contact Deloitte Tohmatsu Consulting LLC.

高梁2025“地域医療はまちづくり”⑤

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

看護師の確保について

市は、将来、市内の医療機関などで働きたい学生を対象に「高梁市看護師等養成奨学金」の貸し付けを行っています。市内の地域医療に貢献していただける人をお待ちしています。

市内の現状

①看護師が40人以上不足
②看護師の６割が50代以上

看護師不足・高齢化は危機的状況！

看護師確保に向けた取り組み

★幼い頃から郷土愛を育み、地域医療への関心を高める取り組み

①「たかはし広がる子どもの夢事業」で医療現場を体験
②方谷学「高梁を知る」で、高梁市の医療についての授業を実施（高梁高校）

その他、小・中学校での看護師体験などを実施していく予定です。

★市内で働く看護師の養成に向けた取り組み

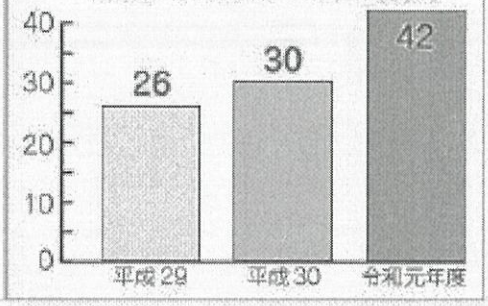
①「高梁市看護師等養成奨学金」などを周知するため、市内病院、医師会と行政が一体となり県内の看護師養成学校を訪問
②市内４病院を巡る見学ツアーの実施

★市内で働く看護師のスキルアップに向けた取り組み

①高梁かんごねっと（事務局：高梁医師会）によるリーダー育成研修や認知症研修、皮膚・排泄ケア研修など専門研修の充実

左記のような取り組みによって大きな成果が表れています。引き続き、市内で適切な医療が提供できるよう取り組みを進めていきます。

市内４病院の看護師採用数



市ホームページ「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

問介護医療連携課☎(21)0304

（５月号）

高梁2025“地域医療はまちづくり”⑥

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

高梁かんごねっと　コーディネーター　細川令子（ほそかわれいこ）さん



高梁かんごねっとは、高梁市の地域医療推進に向けた体制整備を目的とした県・市からの委託事業で、４年前から高梁医師会を拠点に活動しています。

その中で大きな課題となったのは、高齢化が医療職にも及び、10年後は高梁市の医療が崩壊するのではないかという危機感でした。**安心して生活できる環境には医療の充実**が重要であり、市内の医療を維持するため医療関係者で共通認識を高める取り組みから始まりました。

地域医療を担う看護職の質向上を目指し、**①スキルアップ研修　②病院リーダーの育成研修　③施設間の連絡会　④人材の確保　⑤普及啓発**などを行い成果が出ていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症で状況が一変しています。感染症拡大や自然災害など予測できない状況にも対応し、専門職として地域を支える体制作りが必要と考えています。


スキルアップ講習会の様子

私は以前看護職の一員として研修などに参加してきましたが、今年度からコーディネーターとしてバトンを引き継ぎました。

「高梁で働き続けたい！」という思いが広がることを願いながら、現場の皆さんの橋渡しをしていきたいと思います。

市ホームページ「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。

問介護医療連携課☎(21)0304

（９月号）

高梁市地域医療連携に関する協定書

国立大学法人岡山大学 岡山大学病院と一般社団法人 高梁医師会及び高梁市は、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第１条　この協定は、高梁市医療計画（平成３０年５月策定）に基づき、協定締結者それぞれが相互に連携の強化を図ることにより、市民が住み慣れた地域で安心して生活ができるように、市域を越えた切れ目のない適時適切な医療が提供されることを目的とする。

（連携事項）

第２条　協定締結者は、前条の目的を達成するため、次に挙げる分野について連携・協力する。

（１）　地域医療連携の確立に関する事項
（２）　救急医療体制の確立に関する事項
（３）　周産期医療体制の確立に関する事項
（４）　地域医療を推進するための人材育成・交流に関する事項
（５）　円滑な入退院に関する事項
（６）　医療情報の提供と活用に関する事項
（７）　災害時等の医療体制の構築に関する事項
（８）　地域の医療・保健・介護・福祉の関係機関との連携強化に関する事項

２　前項各分野において、連携・協力を推進するにあたり、その方策については、必要に応じて別途定める。

（協定の有効期間）

第３条　この協定の有効期間は，協定締結の日からその属する年度の末日までとする。ただし、期間満了１箇月前までに特段の申し出がない場合は、さらに１年間更新するものとし、以降も同様とする。

２　前項の規定にかかわらず、正当な理由がある場合にはいつでも、事前に申し出ることにより、本協定を解約することができる。

（個人情報の保護）

第４条　協定締結者は、本協定において互いに知り得た情報については、個人情報の保護に努めなければならない。但し、生命に危険を及ぼす場合にはその限りではない。

（疑義等の解決）

第５条　この協定の内容に疑義が生じたとき、又はこの協定に定めのない事項については、必要に応じて協議するものとする。

この協定の締結を証するため、本書３通を作成し、それぞれが署名の上、各自その１通を保有する。

令和　２年　７月　２２日

国立大学法人岡山大学　岡山大学病院

病院長　金澤 右

一般社団法人　高梁医師会

会　長　仲田永通

高梁市

市　長　近藤隆則

山陽新聞（全県版）　２０２０年（令和２年）７月２３日

医療体制充実へ連携

高梁市と医師会 岡山大病院協定

高梁市と高梁医師会、岡山大病院（岡山市北区鹿田町）は22日、医療活動の充実や人材育成などに関する連携協定を結んだ。

高梁市は、2018年に独自に市の医療計画をつくり、市民が高度医療を受けられる体制づくりや医療従事者の高齢化・減少などを課題に掲げ、市外の医療機関との連携強化をうたっている。

協定は、救急医療体制の確立▽医療情報の提供と活用▽災害時の医療体制の構築―など8項目。スムーズな入院受け入れや退院後のサポート体制、患者に関する情報共有、看護師らの人材育成・交流などを想定している。

岡山市の岡山大鹿田キャンパスで調印式があり、近藤隆則市長、仲田永造医師会長、金澤右病院長がそれぞれ協定書に署名した。

近藤市長は「市民が安心できる医療体制につなげる」、仲田会長は「患者への切れ目ない支援をしたい」、金澤病院長は「高梁市との連携を一層強化したい」と話した。（中原由華）



協定書に調印した（左から）仲田会長、金澤病院長、近藤市長